

講義科目名称： 英語学概論 I

授業コード：

英文科目名称： Introduction to the Study of English I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG120		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 英語史、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の基礎的な概念・理論を理解することができる。</p>
授業の概要	<p>英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、問題を解くことで理解の確認をはかる。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション&ことばの起源と語族 (第1章) なぜ人間だけがことばを持っているのだろうか。人間はいつごろから、どのようにしてことばを話すようになったのかことばの起源を考える。また、英語はどのような言語と親戚関係にあるのか、語族・語派について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第1章を読み、言語起源論、語族・語派等について理解する。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第2回 人間のことばと言語研究 (第2章)、英語の発音とスペリング (第3章) 人間のことばにはどのような特徴があるのだろうか。言語研究の諸分野、言語資料の収集や方法について学ぶ。また、なぜ英語の発音と綴りの関係、ローマン・アルファベットと正書法、歴史背景を概観し、英語の音の移り変わりを捉える。</p> <p>【事前学習】 第2,3章を読み、言語研究の各分野や正書法・英語の音の移り変わりについてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第3回 英語の語彙と多様性 (第4章)、標準英語の成立 (第5章) 英語の語彙はいくつぐらいあるのか、なぜ英語とフランス語は似ているのかなど英語語彙の歴史的發展を考える。英語の標準語はどの変種が基盤になったのか歴史的背景を紐解きながら、標準英語の変遷を概観する。また、アメリカ英語の発展の歴史や、インドやシンガポールなどで用いられている国際英語に関しても学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第4,5章を読み、英語語彙の歴史的發展や標準英語の成り立ち等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第4回 英語のバリエーション (第6章)、ことばの変化 (第7章) 英語の地域変種にはどのような種類があるか、否定表現、不規則変化動詞の平準化など地域的非標準英語の言語的特徴を学ぶ。また、アメリカ英語の特徴や、カナダ、オーストラリアなど英米以外の英語の特徴を考える。また、英語の歴史的变化に関してその背景と言語的特徴を考える。</p> <p>【事前学習】 第6,7章を読み、英語・米語の変種や英語の歴史的变化等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第5回 ことばと音声 (第8章)、音の組み合わせとアクセント (第9章) 発音器官と有声音・無声音、母音・子音の区別や分類に関して学ぶ。音素、異音、ミニマルペアや音の脱落や同化などの音の変化、音節やアクセント・リズム、語強勢・文強勢などの音韻的特徴も学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第8,9章を読み、母音・子音の特徴や音素等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第6回 単語が出来るしくみ (第10章) 単語はどのように組み合わせられて成り立っているのだろうか。自由形態素、拘束形態素などの形態素や屈折接辞、派生接辞の特徴、そして複合、派生、転換、逆成、短縮、混成、頭文字語、借用などの語形成のプロセスを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第10章を読み、語形成の種類と方法等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第7回 文が出来るしくみ (第11章)、文の内部構造 (第12章) 単語はどのように組み合わせられて文になるのだろうか。構成素・範疇、句構造標識、句構造規則などの統語構造の基礎を学ぶ。さらに中間的な構成素、X⁰理論、補部と付加部の概念、単文、補文の構造についても考える。</p> <p>【事前学習】 第11,12章を読み、生成文法理論の基礎的概念等をノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>第8回 Review (第1-11章) 1章から11章の復習・まとめ、練習問題</p>

第9回	<p>【事前学習】 第1,7章を復習し、練習問題を解く。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>ことばの意味(第13章)</p> <p>ことばの意味とは何だろうか。人間の外界認識と切り離すことが可能なのであろうか。ことばの意味に対する伝統的な説、指示説と構造意味論の特徴と問題点を概観し、ことばの意味は認識の産物であり、人間の認知能力が極めて重要であるとする概念説を学ぶ。ことばの意味は、人間の側から対象に対する能動的な解釈が加えられて成り立つことを理解する。</p>
第10回	<p>【事前学習】 第13章を読み、指示説、構造意味論、概念説等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>語の間の意味関係 (第14章)、意味の拡張 (第15章)</p> <p>語と語の意味の間にはどのような関係があるのだろうか。同義性、反義性、上下関係(分類学的・機能的) 観点から考察する。語の意味は経験に基づいて得た知識構造を背景にして定義されるというフレーム理論も学ぶ。1つの語や表現が複数の意味を持つのは、シミリー、メタファー、メトニミーなど人間の認知能力が関係していることも学ぶ。</p>
第11回	<p>【事前学習】 第14,15章を読み、反義性や上下関係、メタファー、メトニミー等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>ことばの意味に見られる主観性(第16章) ことばの意味とコンテキスト(第17章)</p> <p>話者の認識はことばの意味にどのように反映されているのだろうか。話者の認識内容や認識作用を表現する言語表現に関して学ぶ。また、認識の仕方が言語表現にどう反映されるか、日本語と英語の間に違いがあるのかについて学ぶ。言葉の意味とコミュニケーションで伝えられる意味と同じか、違う場合、その差はどう埋められるかについても考える。</p>
第12回	<p>【事前学習】 第16,17章を読み、主観的・客観的意味、発話とコンテキスト等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>まとまりのある文章(第18章)、文章中の情報構造(第19章)</p> <p>まとまりのある文章とはどのような文章か、結束性の5つの要素(指示、代用、省略、接続語、語彙の連環)を考へる。また、文章においてどのような順で文が並べられているか前景・背景、文頭・文尾の原則、旧情報・新情報、情報の連環と言う観点から情報構造を捉え、読みやすい文の特徴を考へる。</p>
第13回	<p>【事前学習】 第18,19章を読み、結束性の要素、情報構造等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>ことばのやりとりにおけるルール(第20章)、 コミュニケーションの民俗史(第21章)</p> <p>日常会話における「ルール」協調の原理(量の公理、質の公理、関連性の公理、作法の公理)、そしてそれに違反した時に生じる会話の含意に関して学ぶ。さらに、ある発話の解釈に大きく作用する可能性のある社会的状況を分類したデル・ハイムズのSPEAKINGモデルを学び、発話の構造と機能の面からコミュニケーションを考へる。</p>
第14回	<p>【事前学習】 第20,21章を読み、グライスの協調の原則とハイムズのモデル等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>英語と文化(第22章)、ことばと社会(第23章)</p> <p>聖書や論語の例から、ことばに信頼を置く西洋文化と、言わぬが花の東洋文化に関して考察する。言語がある程度人間の思考に影響を及ぼすというサピア=ウォーフの仮説、そして言語と文化の関係が文章のレベルで表われるとする対照修辞学をまなぶ。また、地域変種、社会変種、アフリカ系アメリカ人の英語の特徴、多言語使用、差別用語の中立化(PC)など社会と言葉の関係について学ぶ。</p>
第15回	<p>【事前学習】 第22,23章を読み、サピア=ウォーフの仮説や社会言語学の基礎概念についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>ことばと国家(第24章)、日本の英語教育と教授法(第25章)</p> <p>英語圏の4つの邦、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの言語状況と言語政策を学ぶ。アメリカの英語公用語化の動きとそれに反対する動き、カナダやオーストラリアの多文化主義と言語教育を概観し、日本における英語教育と教授法の変遷(オーラル・メソッド、オーラル・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチ等)を学ぶ。</p>
第16回	<p>【事前学習】 第24,25章を読み、二言語多文化主義や英語教授法等についてノートにまとめる。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。</p> <p>期末試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	長谷川瑞穂 (編) 『はじめての英語学(改訂版)』 研究社 (2006)
参考書	なし
評価方法	定期試験 (80%)、小テスト・課題/授業への参加度 (20%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p>

	<p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や課題は義務であり、必ず済ませて授業に参加すること。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	(仮) 毎週木曜日 1,2限目 新垣女子研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業内で解答、適宜回収し授業内に返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

講義科目名称： 英語音声学

授業コード：

英文科目名称： The Sounds of English

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG110		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。母音や子音の分類に基づき、それぞれの音の特徴を認識し、聞き取り、音声記号での表記ができるようになる。アクセントやイントネーションパターン、連結、脱落、同化のメカニズムを理解する。
授業の概要	英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び、音声記号の読み・書きの訓練を通して、英語音により近い音が発音できるようにする。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン&Practice 1 (前舌母音) Introduction、英語発音を学ぶ前の準備、英語音声学の基礎知識、音について、母音について Practice 1 (前舌母音 /i:/, /i/, /e/, /æ/) (Step 1-4)</p> <p>【事前学習】 英語音声学の専門用語、発音器官に関して学ぶ。 【事後学習】 p. 4, 5の発音器官、母音について、Practice1の解説の復習。</p> <p>第2回 Practice 2 (後舌母音)、Practice 3 (中舌母音) Practice 2 (後舌母音/u:/, /u/, /ɔ:/, /ɑ/) (Step1-4)、Practice 3 (中舌母音/ə/, /ʌ/, /ɜ:/) (Step1-2)</p> <p>【事前学習】 Practice2-3の説明を読んで、後舌母音、中舌母音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice2-3のStep1-4を復習する。</p> <p>第3回 Practice 3 (中舌母音)、Practice 4 (二重母音<1>) Practice 3 (中舌母音続き)、Practice 4 (二重母音[1] /ei/, /ai/, /au/, /ou/, /ɔi/) (Step1-4)</p> <p>【事前学習】 Practice3-4の説明を読んで、中舌母音、二重母音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice3-4のStep1-4を復習する。</p> <p>第4回 Practice 5 (二重母音<2>)、母音まとめ Practice 5 (/ɜ:/を含んだ二重母音[2])、母音復習 (高母音、中母音、低母音、前舌母音、後舌母音、中舌母音)</p> <p>【事前学習】 Practice5の説明を読んで、/ɜ:/を含んだ二重母音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice5のStep1-4、母音全体を復習する</p> <p>第5回 母音のクイズ、子音について、Practice6 (閉鎖音) 母音の確認クイズ、子音について、Practice 6 (閉鎖音/p/, /b/, /t/, /d/, /k/, /g/) (Step1-3)</p> <p>【事前学習】 Practice6の説明を読んで、閉鎖音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice6のStep1-3を復習する。</p> <p>第6回 Practice 6 (閉鎖音)、Practice 7 Practice 6 (閉鎖音続き、Practice 7 (鼻音 /m/, /n/, /ŋ) (Step1-4)</p> <p>【事前学習】 Practice7の説明を読んで、鼻音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice7のStep1-4を復習する。</p> <p>第7回 Practice 8 (摩擦音<1>)、Practice 9 (摩擦音<2>と破擦音) Practice 8 (摩擦音[1] /f/, /v/, /θ/, /ð/, /s/, /z/)、Practice 9 (摩擦音[2]と破擦音 /ʃ/, /ʒ/, /h/, /dʒ/, /tʃ/)</p> <p>【事前学習】 Practice8, 9の説明を読んで、摩擦音と破擦音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice8, 9のStep1-4を復習する。</p> <p>第8回 Practice 9 (摩擦音<2>と破擦音)、Practice 10(側音と半母音)、子音のまとめ Practice 9 (摩擦音[2]と破擦音 Step4)、Practice 10(側音と半母音/l/, /w/, /r/, /j/)、子音復習 (閉鎖音、鼻音、摩擦音、破擦音、側音、半母音)</p> <p>【事前学習】 Practice9, 10の説明を読んで、摩擦音、破擦音、側音の発音方法と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice9, 10のStep1-4、子音全体を復習する。</p> <p>第9回 子音のクイズ、Lesson 1 (音節と語強勢) 子音の確認クイズ、Lesson 1音節と語強勢 (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p> <p>【事前学習】 Lesson 1の説明を読んで、音節の成り立ちと強勢の種類と記号を確認する。 【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 1のStep1, 2, Let's ListenのStep1, 2を復習する。</p> <p>第10回 Lesson 2 (文強勢) 文強勢 (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2) 内容語、機能語</p>

	<p>【事前学習】 Lesson 2の説明を読んで、文強勢の種類と記号、内容語・機能語について確認する。</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 2のStep1,2、Let's ListenのStep1,2を復習する</p> <p>Lesson 3 (ポーズ)、Lesson 4 (ピッチとイントネーション)</p> <p>ポーズ (Let's Listen Step1-2、Let's try Step1)、ピッチとイントネーション (Let's Listen Step1-2、Let's try Step1-2)</p>
第11回	<p>【事前学習】 Lesson 3の説明を読んで、ポーズ・ピッチ・イントネーションの種類を確認する。</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 3,4のStep1,2、Let's ListenのStep1,2を復習する。</p> <p>Lesson 5 音のつながりⅠ 連結</p> <p>(音のつながりⅠ 連結) ①子音+母音、②[t, d, s, z]以外の子音+[j] (Let's Listen Step1-2、Let's try Step2)</p>
第12回	<p>【事前学習】 Lesson 5の説明を読んで、連結が起こる法則を確認する。</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 5のStep1,2、Let's ListenのStep1,2を復習する。</p> <p>Lesson 6 音のつながりⅡ 脱落(1)</p> <p>①閉鎖音+子音([j]は除く) (Let's Listen Step1-2、Let's try Step1-2)</p>
第13回	<p>【事前学習】 Lesson 6の説明を読んで、脱落が起こる法則①を確認する。</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 6のStep1,2、Let's ListenのStep1,2を復習する。</p> <p>Lesson 7 音のつながりⅢ 脱落(2)</p> <p>①同じ子音が重なった場合 (Let's Listen Step1-2、Let's try Step1-2)</p>
第14回	<p>【事前学習】 Lesson 7の説明を読んで、脱落が起こる法則②を確認する。</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 7のStep1,2、Let's ListenのStep1,2を復習する。</p> <p>Lesson 8 音のつながりⅣ 同化、まとめ</p> <p>[t, d, s, z]+[j] (Let's Listen Step1-2、Let's try)</p>
第15回	<p>【事前学習】 Lesson 8の説明を読んで、同化が起こる法則を確認する。</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 8のStep1,2、Let's ListenのStep1,2を復習する。</p>
第16回	<p>期末試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	今井由美子他 (2010) 『Sounds make perfect 英語音声学への扉』英宝社
参考書	特になし
評価方法	母音のクイズ(25%)、子音のクイズ(25%)、期末テスト(50%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・丸暗記することなく、英語発音の仕組み(メカニズム)を捉えること。 ・発音記号の読みと表記に慣れるよう予習復習を怠らないこと。 ・遅刻欠席をせず、発音の練習時や問題を解くとききちんと参加すること。 ・視聴覚教材を用いる際、私語は妨げとなるので静かにしっかり集中すること。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	(仮) 毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	クイズは授業内で採点し、次回の授業内で返却。期末テストは担当教員が採点し、各自のメールアドレスへ返却します。

講義科目名称： 高等英文法

授業コード：

英文科目名称： Advanced English Grammar

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣 友子・大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：AWR214		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う。時制の全範囲をしっかりと理解し助動詞や受動態など他の分野に正確に適用できるようにする。単文はもちろん、間接話法や仮定法など複文まで正確に作る事が出来るようになる。		
授業の概要	英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本語話者の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。		
授業計画	第1回	Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 2 Present Continuous, Simple Present 【事前学習】 シラバスの確認 【事後学習】 Unit1, 2の間違った箇所をまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第2回	Tense (Present Perfect & Past), Unit 3 - 6 Present Continuous and Simple Present 1, 2, Simple Past, Past Continuous 【事前学習】 Unit3-6で扱う時制(現在完了、過去等)の文法事項を確認し、Unit3-6の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第3回	Tense (Present Perfect & Past) Unit 7-13 Present Perfect, Present Perfect and Past 1, 2, Present Perfect Continuous, Present Perfect Continuous and Simple, How long have you been...? For and since 【事前学習】 Unit7-13で扱う時制(現在完了進行形等)の文法事項を確認し、Unit7-13の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第4回	Tense (Present Perfect & Past) Unit 14-17 When...? and How long...? Past Perfect, Past Perfect Continuous, Have and have got, Used to 【事前学習】 Unit14-17で扱う時制(過去完了等)の文法事項を確認し、Unit14-17の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第5回	Tense (Future) 18-24 & Review of Tense Present Tenses with a Future Meaning, (I' M) going to (do), Will 1, 2, I will and I' m going to, Will be doing and will have done, When I do, When I' ve done, When and if 【事前学習】 Unit18-24で扱う時制(未来等)の文法事項を確認し、Unit18-24の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第6回	Modals, Unit25-29 Can, could, and (be) able to, Could (do) and could have (done), Must, May and might 【事前学習】 Unit25-29で扱う助動詞の文法事項を確認し、Unit25-29の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第7回	Modals, Unit30-35, Have to and must, Should, Subjunctive, Had better, It' s time..., Would, Can/Could/Would you...? (Requests, Offers, Permission, and Invitations) 【事前学習】 Unit30-35で扱う助動詞の文法事項を確認し、Unit30-35の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第8回	Review of Modals Can, could, and (be) able to, Could (do) and could have (done), Must, May and might, Have to and must, Should, Subjunctive, Had better, It' s time..., Would, Can/Could/Would you...? (Requests, Offers, Permission, and Invitations) 【事前学習】 Unit1-35で扱う時制と助動詞の文法事項を確認し、巻末の補助教材p. 296-307、Study Guide p. 319-321を解いて解答する。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第9回	Conditionals Unit 36-37 If I do..., If I did..., I wish I knew... 【事前学習】 Unit36-37で扱う仮定法過去の文法事項を確認し、Unit36-37の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。	
	第10回	Conditionals, Unit 38-39, Review of Conditionals If I had known, I wish I had known, Review of Conditionals 【事前学習】 Unit38-39で扱う仮定法過去完了の文法事項を確認し、Unit38-39の問題を解いて解	

	<p>答まで 済ませる。 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。</p> <p>第11回 Passive, Unit 40-44 Present, past, Continuous, perfect, Passive 1 (is done / was done), Passive 2 (be done / been done / being done), Passive 3 (two objects, passive of being, get), It is said that... He is said to... He is supposed to..., Have / get something done 【事前学習】Unit40-44で扱う受動態の文法事項を確認し、Unit40-44の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。</p> <p>第12回 Reported Speech, Unit 45-46, Review of Passive & Reported Speech He said that..., say and tell, tell / ask somebody to do something, Review of Passive, Reported Speech 【事前学習】Unit45-46で扱う話法の文法事項を確認し、Unit45-46の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。</p> <p>第13回 Questions Unit 47-50 Wh-questions, indirect questions, tag questions 【事前学習】Unit47-50で扱う各種疑問文の文法事項を確認し、Unit47-50の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。</p> <p>第14回 -ing & infinitive, Unit 51-53 Verb + ing (enjoy doing / stop doing), Verb + to (decide to..., forget to...), Verb (+object) + to... (I want you to) 【事前学習】Unit51-53で扱う動名詞・不定詞の文法事項を確認し、Unit51-53の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。</p> <p>第15回 -ing & infinitive, Unit 51-55 Verb + -ing or to...1 (remember / regret), 2 (try / need / help), 3 (like / would like) 【事前学習】Unit54-55で扱う動名詞・不定詞の文法事項を確認し、Unit34-55の問題を解いて解答まで済ませる。 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。巻末の補助教材 p.307-311、Study Guide p.321-322を解いて解答する。</p> <p>第16回 Final exam</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 {○}</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 { }</p> <p>3) ICTの活用 { }</p> <p>4) 初年次教育 { }</p>
テキスト	Raymond Murphy, "Grammar in Use Intermediate", Cambridge
参考書	特になし
評価方法	定期試験(80%)、宿題・クイズ(10%)、授業への参加度(10%)を総合的に判断して評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>・定期的にはQuizを行うため必ず予習してくること。</p> <p>・英文法・英作文Ⅲを履修済みか、それ相当以上の実力がある学生が受講すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室 (前期)</p> <p>毎週 曜日 限目 大城直人研究室 (後期)</p>
課題に対するフィードバック方法	小テストは授業内で採点し、次回の授業で返却。期末テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却します。

講義科目名称： 英語学概論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Introduction to the Study of English Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG221		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	英語の構造と機能について理解を深める。語学としての英語ではなく、一般言語学、理論言語学という学問の一部として英語を形態的、意味論的、語用論的に分析する方法を理解する。		
授業の概要	英語学概論Ⅰで学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。特に形態論、意味論の分野に焦点を当てるほか、国内外の多様な英語のバリエーションを多角的に考察し、国際共通語としての英語の実態についての理解を深める。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。		
授業計画	第1回	Introduction Knowledge of Language 【事前学習】 専門用語の意味と使い方を調べる。 【事後学習】 専門用語と基本概念の復習。	
	第2回	Why Study English Linguistics① What is English linguistics?, Components of Grammar(morphology, semantics, syntax, phonetics and phonology) 【事前学習】 1章 (p.1-3) を読み、英語言語学とは何かまとめワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第3回	Why Study English Linguistics② Subfields of Linguistics, How English has been studied? (Traditional Grammar, Structural Linguistics, Generative Grammar, Cognitive Linguistics) 【事前学習】 1章 (p.3-5) を読み、言語学の各専門分野と言語研究の変遷をまとめてワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第4回	How Words Are Made: Morphology① Dividing words into parts, Compounding(Compound Stress Rule, Phrasal Stress Rule, Right-hand Head Rule) 【事前学習】 3章 (p.21-24) を読み、複合規則、右側主要部の規則等、語形成に関してまとめてワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第5回	How Words Are Made: Morphology② Compounding(Semantic Compositionality, Binary Branching Constraint) Derivation 【事前学習】 3章 (p.24-26) を読み、派生についてまとめてワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第6回	How Words Are Made: Morphology③ Conversion, Inflection, Minor Word Formation Processes(Clipping, Blending, Acronym, Initialism) 【事前学習】 3章 (p.26-29) を読み、転換、屈折等その他の語形成に関してまとめてワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第7回	How Words Mean; Semantics I① Kinds of meaning(conceptual meaning, associative meaning), Meaning as a set of properties, Categorization and prototypes(The Sapia-Whorf Hypothesis) 【事前学習】 4章 (p.33-36) を読み、意味の種類やプロトタイプ理論についてまとめワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第8回	How Words Mean; Semantics I② Semantic Networks(hyponymy, meronymy), Synonyms and antonyms, Polysemy 【事前学習】 4章 (p.36-39) を読み、同義・反義・多義性等についてまとめワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第9回	How Words Mean : Semantics I ③ Metaphor and metonymy Metaphor and metonymy 【事前学習】 4章 (p.39-40) を読み、隠喩、換喩についてまとめてワークシートを解く。 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。	
	第10回	Review 1-9	

第11回	<p>【事前学習】1章、3章、4章の復習をし、関連する練習問題を解く。 【事後学習】ディスカッションや課題で挙げた事項を復習する。</p> <p>How Sentences mean : Semantics II ① Semantic Roles and argument structure (Agent, Patient, Goal, Source)</p> <p>【事前学習】7章 (p.79-82) を読み、意味役割と項構造等についてまとめてワークシートを解く。 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。</p>
第12回	<p>How Sentences mean : Semantics II ② Selectional restrictions, Constructional Meaning (locative alternation, dative alternation, dative construction)</p> <p>【事前学習】7章 (p.82-84) を読み、意味制限や情報構造等についてまとめてワークシートを解く。 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。</p>
第13回	<p>How Sentences mean : Semantics ③ Word order and information(topicalization, Principle of End Focus), What do pronouns refer to? (personal & reflexive pronouns)</p> <p>【事前学習】7章 (p.85-87) を読み、文末焦点の原則、代名詞の規則等をまとめてワークシートを解く。 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。</p>
第14回	<p>Regional Varieties of English: Sociolinguistics I English in the world, Regional Dialects, Intranational variation, International variation</p> <p>【事前学習】10章 (p.115-122) を読み、英語・米語の地域バリエーションに関してまとめワークシートを解く。 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。</p>
第15回	<p>English in Society: Sociolinguistics II Social Variation, Standard vs. Nonstandard English, Grammatical variation, Phonological variation, Lexical variation, Language and gender</p> <p>【事前学習】11章 (p.127-136) を読み、非標準英語の文法・音韻・語彙の特徴をまとめてワークシートを解く。 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。</p>
第16回	Final Examination
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	影山太郎他(2004) "Introduction to English Linguistics" 2nd ed. くろしお出版
評価方法	授業態度や授業への参加度(10%)、課題や練習問題(30%)、期末テスト(60%)の結果を総合的に判断する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学概論 I を履修しておくこと。 ・予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。 ・教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	(仮) 毎週木曜日 1,2限目 新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は採点、評価後、授業内で返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

講義科目名称： 英日翻訳技法 I

授業コード：

英文科目名称： English—Japanese Translation I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
呉屋 英樹			
授業形態：演習	ナンバリング：INT310		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：様々な英文和訳の技法と演習</p> <p>学生が英語と日本語の文化の違いを意識した翻訳をすることができる。</p> <p>学生が英語の文構造(文法)と語彙を説明できる。</p> <p>学生が英語および日本語において、文脈に適した表現を使い分けられる。</p> <p>学生が主体的に他者と協力して課題やタスクに取り組める。</p>
授業の概要	<p>・授業では、これまで学習した英語の文法知識や語彙・表現を、教科書を用いて英文法を確認しつつ、文脈に則した日本語に翻訳する技法を修得する。特に学生は、様々な形態の協働的活動を通じ、他者と協力して課題に取り組む積極的で自律的な態度を育む。学生は、復習クイズやグループ活動による協働学習、教員による宿題の解説解答の後、振り返りシート(Achievement sheet)を通じ日本語と英語の違いに気づき、文化的な背景や言語の特性、独特の表現方法の技能を修得し、クイズや試験を通じて知識や理解を獲得する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>本講義の学習内容、学習目標および学習方法、課題の種類と受講にあたっての注意点を説明し、Achievement sheetを仕上げてもらいます。</p> <p> 【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに目を通しておくこと。 ・自己紹介(氏名、出身、将来の夢、学期の抱負など)を簡単な英語でできるよう準備しておくこと。 <p> 【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom上に作成される「英日翻訳技法I」のクラスサイトに登録する。 ・Achievement sheet を仕上げる。 ・シラバスを熟読しておく。 <p>第2回 英文和訳とは(英日翻訳の注意点)</p> <p>英語を日本語に翻訳するときの重要なポイントを学習し、なぜ翻訳が難しいのかを考える。</p> <p> 【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法I」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。 <p> 【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のp.4の課題に取り組む。 ・Google Classroom「英日翻訳技法I」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。 <p>第3回 Newspaper Articlesの翻訳について</p> <p>教科書のタスクを通じて、英字新聞の記事を日本語に訳するときのポイントについて学習し、英語記事の構造について理解を深める。</p> <p> 【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法I」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。 <p> 【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のp.5の課題に取り組む。 ・Google Classroom「英日翻訳技法I」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。 <p>第4回 Magazine Articlesの翻訳について</p> <p>教科書のタスクを通じて、英字雑誌の記事を日本語に訳するときのポイントについて学習し、長い英文をどのようにして和訳するのかを考える。</p> <p> 【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法I」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。 <p> 【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のp.13の課題に取り組む。 ・p.9の翻訳課題を提出できるよう準備する。 ・Google Classroom「英日翻訳技法I」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。 <p>第5回 Business Documentsの翻訳について</p> <p>教科書のタスクを通じて英語によるビジネス文書を日本語に訳し、特殊な語彙や数字を和訳する時の注意点について学習する。</p>

第 6 回	<p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp. 17の課題に取り組む。 ・p. 14の翻訳課題を提出できるよう準備する。 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>Novelsの翻訳について 教科書のタスクを通じ英語で書かれた物語を和訳する際の注意点と、文化的な相違による翻訳の難しさを学習する。</p>
第 7 回	<p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp. 22の課題に取り組む。 ・p. 18の翻訳課題を提出できるよう準備する。 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>翻訳演習 1：英詞の和訳について 配布されるワークシートを通じて英詞の和訳にチャレンジし、その難しさを学習する。</p>
第 8 回	<p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>前半のふりかえりとまとめ これまで学習した内容をふりかえり、学習した内容をまとめる。</p>
第 9 回	<p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、全ての講義資料（Week 1~7）に目を通す。</p> <p>中間テストとグループ発表について 中間テストを通じてこれまでの学習を点検し、学期末課題であるグループでの翻訳課題についてその詳細を確認する。</p>
第 1 0 回	<p>【事前学習】 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、全ての講義資料（Week 1~7）に目を通す。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp. 23~36の課題に取り組む。</p> <p>Fashion Catalogsの翻訳について 教科書のタスクを通じ、英語で書かれたファッションカタログの和訳に取り組み、よりカジュアルな表現技法を学習する。</p>
第 1 1 回	<p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp. 26の課題に取り組む。 ・p. 23の翻訳課題を提出できるよう準備する。 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>Recipesの翻訳について 教科書のタスクを通じ、英語で書かれた料理レシピの和訳に取り組み、作業効率を考えた表現を学習する。</p> <p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp. 27およびp. 31の課題に取り組む。 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p>

	<p>第12回 Children's Booksの翻訳について 教科書のタスクを通じ、英語で書かれた児童文学の和訳に取り組み、挿絵を考慮した表現方法を学習する。</p> <p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp.32およびp.35の課題に取り組む。 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>第13回 Movie Subtitlesの翻訳について 教科書のタスクを通じ、洋画の和訳に取り組み、セリフの長さにあった翻訳技法を学習する。</p> <p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・教科書のp.36の課題に取り組む。 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>第14回 翻訳演習2：歌詞の和訳について 配布されるワークシートを通じて洋楽の歌詞の和訳にチャレンジし、その難しさを学習する。</p> <p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、講義後に配布される本日の講義資料を見直す。 ・講義中に配布されたワークシートを再度見直す。</p> <p>第15回 後半のまとめと振り返り これまで学習した内容をふりかえり、学習した内容をまとめる。</p> <p>【事前学習】 ・復習クイズに備え、Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」にアップされている前時の講義資料に目を通す。 ・Achievement sheetの本日の講義欄に、予習復習の際に思った疑問点を記しておく。</p> <p>【事後学習】 ・Google Classroom「英日翻訳技法Ⅰ」上で、全ての講義資料(Week 9~15)に目を通す。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【グループ学習、ディスカッションによる講義運営】 2) 情報リテラシーに関する科目 【調べ学習の際のオンライン辞書の活用】 3) ICTの活用 【Google Classroomの活用した講義】 4) 初年次教育 【キャリアと講義を結ぶAchievement Sheetの活用】</p>
テキスト	・英日英和翻訳実践トレーニング(田辺希久子/光藤京子) MacMillan Education Japan 978-4-7773-6162-5
参考書	・英和辞書もしくは英和辞書の機能がついた電子辞書
評価方法	<p>・復習クイズ(20%)：毎回授業の冒頭で前時の内容の復習テストを行います。復習クイズの追試は行いません。</p> <p>・宿題(20%)：宿題は毎回必ず確認します。必ず授業の前までに済ませておいてください。休んだ場合は、各自の責任を持って正答を確認しておいてください。</p> <p>・その他(10%)：グループによる翻訳作業を課題として取り組んでもらい、発表してもらいます。</p> <p>・定期試験(40%)：中間テストと期末テストをおこないます。各テストとも宿題や教科書の問題から出題します。</p> <p>・振り返りシート(Achievement sheet)(10%)：毎授業前後に各自で記入してもらい、担当教員のチェックを受けてください。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1~4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	・講義後、使用した資料を必ず見直すこと。

	<ul style="list-style-type: none">・課題は毎週提出する。・英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none">・講義終了後、質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方 法	<ul style="list-style-type: none">・課題へのフィードバックやコメントは、Google Classroom のクラスサイト上で行います。・復習クイズはその都度講義内で解答、採点し返却します。・その他の提出物は、講義終了後返却します。

講義科目名称： 日英翻訳技法I

授業コード：

英文科目名称： Japanese→English Translation I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
授業形態：演習	ナンバリング：INT417		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Through this course, students will learn a variety of techniques to help them acquire advanced English skills and communication ability so that they will be able to better translate from their native Japanese into English. Students will acquire knowledge and skills in different methods of translation so that when they are called upon to translate, they many utilize such knowledge and skills to produce English translations that will capture the essential meaning of the source language and is readily understandable to the audience in the target language.
授業の概要	Over the course of the semester, students will complete a series of exercises to gain a better understanding of each of the guiding principles for translation and the specific techniques. Students are expected to come to each class prepared by having completed their translations to each of the exercises. Students translations will be compared and discussed so that all students understand what translations are acceptable and what are the most common pitfalls that the native Japanese speaker experiences.
授業計画	<p>第1回 和文英訳技法の基本－基本の理解 This class will discuss what translation is and general principles to follow in order to create a different linguistic framework for producing translations in a foreign language. There will also be an introduction to how the class will be conducted and the assignments given as well as what is expected of students to obtain their desired grade.</p> <p>【事前学習】 Before the first class, students should read some Japanese to English translations to familiarize yourself with what translation is. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第2回 和文英訳技法の基本－その2 以下の基本原理を学ぶ。 日本語を分析して自然な英語で表現しよう。 無駄を省いてわかりやすく書こう。 足りないところは補って英語らしい英語に訳す。 など。</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第3回 日本文の主語→英文の主語－その1 英文の主語の訳し方を学ぶ。 日本文の主語→英文の主語 日本文の主語にかかる修飾語→英文の主語 日本文の補語→英文の主語 日本文の目的語→英文の主語</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第4回 日本文の主語→英文の主語－その2 日本文の副詞語句→英文の主語 日本文の「～は」「～が」は必ずしも英文の主語にできない。 人称代名詞を補って英訳する 非人称のitを補って英訳する</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第5回 日本文の主語→英文の主語－その3 英文の主語の総括</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第6回 英語的な主語－その1</p>

「(～に)・・・がある」ことを表すには、There～+主語の構文を使う。
「～することは・・・だ」という表現は形式主語のitを文頭に置いて訳すとよい。
日本文で副詞句に相当する部分が、英文では無生物・抽象名詞を主語とした表現になる。

第7回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>英語的な主語—その2 日本語ではふつう動詞や形容詞を否定するのに対し、英語では名詞を否定したり、否定の代名詞を用いることが多い。 否定語は、日本語ではふつう文尾に置くが、英語ではなるべく前に出そうとする。</p> <p>Review previous lessons for test.</p>
第8回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>まとめ(中間) 中間試験</p>
第9回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>動詞の選択—その1 日本語の「する」はdoとは限らない。 「～になる」はbecome以外にも訳せる。 「～である」は意味を分析してから訳す。</p>
第10回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>動詞の選択—その2 「思う」、「考える」はthink以外の動詞を使うことも工夫しよう。 日本語・英語の自動詞・他動詞は必ずしも一致するとは限らない。</p>
第11回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>使役動詞と態の用法—その1 1. 「させる」または「してもらおう」を表したいときにはhave+目的語(人)+原形不定詞の構文。 2. Letは「したいようにさせてやる」(容認)、makeは「いやでもさせる」(強制)を示す。 3. Allow, force, getは目的語の後にto-不定詞がくる。</p>
第12回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>使役動詞と態の用法—その2 4. 感情・心理を表す動詞は受動態になることが多い。 5. 事故死・負傷など「被害」を表す動詞は受動態になる。 6. 「(物を)～される」はhave+目的語(物)+過去分詞。</p>
第13回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>和文英訳と英語の時制—その1 「ある」、「いる」、「する」、「なる」などの訳 →英語の未来形 →英語の現在完了形 →英語の過去・過去完了形</p>
第14回	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>和文英訳と英語の時制—その2 「した」、「だった」、「いた」などの訳し方 →英語の現在形 →英語の現在完了形 →英語の過去完了形</p>
	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>

	<p>to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第15回 他人のことばを伝える話法とまとめ 直接話法と間接話法の訳し方</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	Materials provided by the instructor
参考書	和英と英和辞典（例文の多いの）、英辞郎、Honyaku Star、その他のonline database. グググル翻訳は好ましくないなので、ご注意ください。
評価方法	中間テスト(37.5%)、期末試験(50%)、Project (12.5%)を合計し、総合的に評価する。授業参加も課題完成も、講義を成功するために、不可欠です。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。 宿題を完成した上、受講してください。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対するフィードバック方法	Tests will be reviewed in class with sample translations presented.

講義科目名称： 英文学史

授業コード：

英文科目名称： History of British Literature

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT306		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ： 英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。</p> <p>到達目標： イギリス文学に見られるさまざまな英語表現にある程度親しみ理解できるようになる。イギリスの文学と歴史に関する入門的な知識を獲得する。イギリス史における代表的な作品の時期やテーマについて理解している。</p>
授業の概要	<p>古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／教養とは何か（英文学史の意義） 近年、一般教養を学ぶ意味が問われるようになってきているが、世界史において近代をリードしたイギリスの歴史と文学への導入を通して、一般教養の意義をめぐる問題提起とする。</p> <p>【事前学習】 「もくじ」を参考にテキストをざっと見ておく。 【事後学習】 講義で学んだことをもとにイギリスの歴史と文学について考え、期末エッセイに備える。</p> <p>第2回 黎明期のイギリス——叙事詩 ケルト社会からはじまり、ローマによる支配、アングロ＝サクソン人たちの定住をへて、ノルマン・コンクエストにいたる歴史を概説する。文学作品については、『ベオウルフ』、「十字架の夢」の紹介を行う。</p> <p>【事前学習】 テキストのプロローグ「イギリス文学の黎明期」を読んでおく。 【事後学習】 テキスト第1章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p> <p>第3回 法の支配——チョーサー ヘンリー2世とカンタベリ大司教のトマス・ベケットの確執を通して、国家と宗教の間でいかなる問題がもたらがったのか、その結果どのようにイギリスにおいて「法の支配」が始まったのかを概観する。作品については、チョーサーの『カンタベリ物語』を中心に扱う。</p> <p>【事前学習】 テキスト第1章「チョーサーの時代」を読んでおく。 【事後学習】 テキスト第1章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p> <p>第4回 ペストと反乱——バラッドや道徳劇 14世紀半ばにペストが大流行し、ワット・タイラの乱が起こるが、こうした社会変動を通して、イギリスにジェントリ階級が登場したいきさつを概観する。作品については、バラッドや道徳劇『エヴリマン』等を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第1章「チョーサーの時代」を再読する。 【事後学習】 今回の講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p> <p>第5回 宗教改革——シェークスピア 16世紀にカトリックの国からプロテスタントの国へ様変わりしたイギリス——その激変を生き抜いたアン・ブーリン、メアリ・スチュアート、エリザベス女王という3人の女たちの生きざまを通して、イギリスの宗教改革を概観する。作品についてはシェークスピアのソネットや喜劇『お気に召すまま』を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第2章「シェイクスピアの時代」を読んでおく。 【事後学習】 テキスト第2章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p> <p>第6回 古代、中世、ルネッサンス期の文学 第1回から第5回の講義をふりかえり、チョーサー、スペンサー、シェークスピア等をふたたび取り上げ、とくにイギリス詩の形式や韻律の構造などを概説する。</p> <p>【事前学習】 テキストのプロローグから第2章を復習する。 【事後学習】 講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p> <p>第7回 ピューリタン革命——ジョン・ミルトン 清教徒（ピューリタン）革命から共和制をへて、王政復古にいたるまでの内乱の時期を概観する。作品については、ミルトンの『失楽園』やジョン・ダン、アンドルー・マーヴェルの詩を取り上げる。</p> <p>【事前学習】 テキスト第3章「ミルトンの時代」を読んでおく。 【事後学習】 テキスト第3章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p> <p>第8回 名誉革命——ポープとスィフト 共和制末期から、王政復古、そして名誉革命までの歴史を概観し、イギリスが18世紀後半から19世紀にかけて「大英帝国」として繁栄することになる基礎がこの17世紀後半につくられたことを説明する。文学については、ポープのヒロイック・カブレットとスィフトの風刺作品を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第4章「ドライデンとポウプの時代」を読んでおく。 【事後学習】 テキスト第4章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>

第9回	<p>革命の時代——ブレロマン アメリカ合衆国の独立、フランスとの戦争を通して、イギリスがいかに世界をリードしたかを概観する。文学としては、ジェイムズ・トムソンやウィリアム・ブレイク等を中心に紹介する。</p> <p>【事前学習】テキスト第5章「ジョンソンの時代」を読んでおく。 【事後学習】テキスト第5章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第10回	<p>ロマン主義文学（第1世代） ワーズワースとコールリッジの中心に、ロマン派第1世代の人生と作風、哲学を説明する。</p> <p>【事前学習】テキスト第6章「ワーズワースの時代」を読んでおく。 【事後学習】テキスト第6章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第11回	<p>ロマン主義文学（第2世代） シェリー、バイロン、キーツといったロマン派文学第2世代の人生と作風、哲学を説明する。</p> <p>【事前学習】テキスト第6章「ワーズワースの時代」を再読する。 【事後学習】テキスト第6章にそって今回の講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第12回	<p>ロマン主義と沖縄 ロマン主義文学が花咲いていた1916年に琉球（沖縄）へやってきたバジル・ホールの『琉球・朝鮮航海記』を中心に、当時の沖縄がどのようにイギリスで紹介されていたのか詳説する。</p> <p>【事前学習】テキスト第5章「ジョンソンの時代」を再読する。 【事後学習】テキスト第5章と第6章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第13回	<p>パックス・ブリタニカ——アーノルド、他 アヘン戦争をへて万国博覧会の開催、インドの支配などを通して、ビクトリア朝のイギリスがいかに世界に君臨したかを概説する。文学については、マッシュュー・アーノルドを中心に紹介する。</p> <p>【事前学習】テキスト第7章「テニソンの時代」を読んでおく。 【事後学習】テキスト第7章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第14回	<p>ラファエロ前派とワイルド ラファエロ前派のロゼッティ兄妹とオスカー・ワイルドの人生と作風を概観し、とくにワイルドのウィットに富んだ警句を紹介する。</p> <p>【事前学習】テキスト第8章「ハーディの時代」を読んでおく。 【事後学習】テキスト第8章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第15回	<p>戦争の世紀——エリオット、ベケット、他 20世紀の前半に、世界がどのように大戦を2度も経験したのか概観する。文学については、T・S・エリオットやベケットの紹介を行う。</p> <p>【事前学習】テキスト第9章「ジョイスの時代」を読んでおく。 【事後学習】テキスト第9章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。</p>
第16回	<p>まとめと期末エッセイ イギリスの歴史と文学について学んだことを振り返りながら、一般教養の意義をめぐる問題を再考する。講義で学んだことをもとに期末テストとしてエッセイを書いてもらう。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス史』（ミネルヴァ書房）
参考書	ハンドアウトなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。
評価方法	学習メモ50%、期末エッセイ50%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	文字・ビジュアル情報の多いクラスなので、集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。
オフィスアワー	毎週火曜日（13：00～14：30）研究室 メールなどによる事前の予約が望ましい。 メールアドレス：hamagawah@oc.jc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	学習メモは採点・評価後に毎回の授業内で返却し、期末エッセイは各自のメールボックスへ返却する。

講義科目名称： 米文学史

授業コード：

英文科目名称： History of American Literature

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
喜納 育江			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT308		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 米文学の歴史的な流れを説明できるようになる。 2) 代表的な米文学の作家と作品について入門的な知識を獲得する。 3) 代表的な米文学の作品の重要箇所を原語の英語で読み、理解できるようになる。 4) アメリカ社会と自らの社会を比較する視点を獲得する。
授業の概要	<p>この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテクストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て、モダニズムの時代から、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。</p>
授業計画	<p>第1回 アメリカ史のアウトライン そもそも「文学」がどのような学問であるか、「文学」を学ぶ意義について考える。その上で、「アメリカ文化」とはどんな文化か、またアメリカ文学を理解することがどのようにアメリカの文化や社会を理解することと関係するのかについて理解する。さらに、アメリカ文学にとってどのような時代や作品、作家が重要になるのか、そしてこの講義ではどのような時代、作品、作家に関する講義を行う予定なのかをシラバスで全体を概観しながら講義する。これにより、米文学史全体の流れを理解してもらいたい。また、本講義で読む教材は全て英語である。それぞれの時代の英語に親しめるようになるために、この講義ではどのような学習方法で学ぶべきかについても享受する。 【事前学習】 これまでの授業の中でアメリカあるいはアメリカ文学についてどのようなことを学んだかを振り返る。 【事後学習】 アメリカ文学について講義で学んだことを振り返る。</p> <p>第2回 アメリカ先住民とヨーロッパによる植民地化 初期アメリカ文学において理解すべきことは、アメリカ大陸とは、そもそもアメリカ先住民が住んでいた場所であり、そこに大航海時代でヨーロッパ人がやって来たことで、ヨーロッパの植民地主義による「文明」が大陸のダイナミズムを変容させることとなったということである。ヨーロッパ人はなぜアメリカ大陸に来ることとなったのか、ヨーロッパ人はアメリカ大陸をどのように眼差したのか、またそのようなヨーロッパ人をアメリカ先住民はどのように眼差したか、文字を持たないアメリカ先住民の声を聞くことはできるのか、という問題について、15世紀にスペイン王室の命を受けてインドを目指す航海の中で偶然にもバハマ諸島にたどり着いたChristopher Columbus の書簡とコロンブスの後に続く一連の「expedition (探検)」の一体体としてアメリカ大陸に入るも先住民の「捕虜」となった 16世紀のAlvar Nunez Cabeza de Bacaが、先住民の民族性や文化について詳細に記録した手記の英訳を読み、その時代性を理解する。 【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。 【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第3回 イギリス植民地の黎明期とピューリタンの思想 現在のアメリカ国家の基礎を築いたイギリスがどのようにアメリカ大陸の植民地事業に参入して来たのか、アメリカとイギリスの関係について理解する。アメリカへ最初に入植した John Smith とアメリカ先住民の関係、そしてその後アメリカへ渡ることとなるイギリスのピューリタン(清教徒)の物語について講義する。最初にイギリスに渡ったピューリタンのグループ(Pilgrim Fathers)の主導者であり、最初の定住型植民地となるプリマス植民地の初代総督となった William Bradfordの Of Plymouth Plantationの記録から、ピューリタンとアメリカ大陸の関係、初期のピューリタンとアメリカ先住民の関係を考える。また、ピューリタンがどのような志を持ってアメリカ大陸に渡ったのかについて、メイフラワー盟約(Mayflower Compact)の文書、John Winthropの記述などを参考にしながら理解する。 【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。 【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第4回 イギリス植民地とピューリタン詩人 アメリカ大陸にはプリマス植民地に引き続き、マサチューセッツ湾岸植民地ができるなど、イギ</p>

リスからピューリタンを中心とした移住者が増加する。その中に、Anne Bradstreetという詩人がいた。彼女はアメリカ文学史上で最初の詩集となる『The Tenth Muse』をイギリスで出版する。ピューリタン、そして女性としての感性が表現された詩を鑑賞しながら、ピューリタン文化、そしてピューリタンとしての女性としての意識について考える。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。

第5回

イギリスからの独立と建国の父たち

イギリスの植民地だったアメリカが、啓蒙思想を背景とする「革命」を通して政治的独立を果たすまでの経緯についての講義である。アメリカの独立とは、単に宗主国のイギリスからの独立を果たすという意味だけでなく、「アメリカ人」および「アメリカ国家」の誕生も意味する。「アメリカ」とはどのような理想を持った社会なのか。Benjamin Franklin や Thomas Jefferson など、アメリカ国家の黎明期に活躍したリーダーたちが書いた文章から読み解く。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。

第6回

超絶主義とは何か

政治的独立を果たしたアメリカが次に目指したものが、アメリカの文化的独立（知的独立）であった。その中心となった知識人にRalph Waldo Emersonがいる。この回では、ヨーロッパのロマン主義思想の影響を受けながらも、そのロマン主義をアメリカの風土に根ざした思想へと発展させ、アメリカのルネサンスなる時代を築いたEmersonの人物像と共に、彼が提唱した「超絶主義」という思想について、"Nature,""Self Reliance,"そして"Poet"などEmersonのエッセイを読み解きながら理解する。アメリカ東部のエスタブリッシュメントを歴史的に理解することにより、19世紀アメリカが今日のアメリカにおいても政治、文化、思想のあらゆる面での基礎を築いた時代であることを理解する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。

第7回

超絶主義と19世紀アメリカの詩

エマソンの「超絶主義」は、ニューイングランドを中心とするアメリカ東部で19世紀に興隆した文学の思想的なバックボーンとなったが、その例として、この回では、Walt WhitmanとEmily Dickinsonという二人の（非常に対照的な）詩人を取り上げる。Whitmanは、拡大する国土や国家として成長するアメリカを讃え、従来の伝統を打破する勢いのある自由律の詩で国民的詩人として知られた。一方、Dickinsonは、ほとんど家から出ることもなく、公には全く無名のまま一生を終えた詩人だが、死後に出版された作品によって、モダニズムを先取りしたとも言える自由かつ前衛的な詩によって評価された詩人である。詩風においても両者はほとんど似ても似つかぬ印象を与えるが、実は両者とも「自己（self）」を堅持している点で確実にエマソンの超絶主義に共鳴していた。この点を、二人の詩を原文で読み、鑑賞することによって学ぶ。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。

第8回

超絶主義から考えるアメリカの自然と文明

エマソンの書生として「超絶主義」から多大な影響を受け、実際に文明から距離を置いた自然の中でその思想をした人物に Henry David Thoreauがいる。自然を礼讃し、人間の文明を批判した『Walden, the Life in the Woods（『森の生活』）で知られるThoreauはまた、19世紀アメリカ社会の黒人奴隷制度や、領土拡張のための米墨戦争など、国家の政策を痛烈に批判した。この回では、主にThoreauの人物像と共に、彼のエッセイ『Civil Disobedience』を読み、Thoreauの言葉や行動に超絶主義がどのように影響していたかについて考察する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。

第9回

アメリカ南北戦争、奴隷制度廃止運動と文学

アメリカ社会において最も重要な記憶として奴隷制度がある。南北戦争前には奴隷廃止論をめぐり、国家が二分されていた時期であるが、その時代の言論に少なからず影響を与えた文学作品であるHarriet Beecher Stoweの小説『Uncle Tom's Cabin』を中心に、映画なども参考にしながら、当時の奴隷制度の現実や冷酷さについて学ぶ。さらに、19世紀の奴隷制度がアメリカにとって何を意味していたのか、今日のアメリカにどのような影響を与えているのかについても考える。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自

	<p>分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第10回 写実主義 (Realism) の文学</p> <p>大陸を東西に結ぶ大陸横断鉄道の完成により、西洋文明がアメリカ大陸全体を席卷していくようになる19世紀アメリカは、アメリカからヨーロッパへ出て行くコスモポリタンが出てくる一方、アメリカ国内の地域の特色に着目し、地域的多様性を描く文学が出てきた。地域の風土や言語、文化をあるがままに再現しようとする文学的手法は、「写実主義 (realism)」であるが、特に地域の特徴にこだわる文学は「地域主義」と呼ばれる。この回では、Mark Twainを取り上げ、彼がなぜコスモポリタンではなく「地域を描く」文学を志向したのか、また、地域を写実的に描くためにどのような工夫をしたのかについて学ぶ。</p>
	<p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第11回 Adventures of Huckleberry Finnはなぜアメリカ文学の名作なのか</p> <p>Mark Twain の <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> は、のちにノーベル文学賞作家 Ernest Hemingwayをして「全てのアメリカの小説はこの作品から出てきた」と言わしめたアメリカ文学を代表する小説である。この作品はなぜ「名作」と言われるのかについて、小説の文体や登場人物の人物像、当時のアメリカ社会のイデオロギーと小説の中で展開されている哲学などについて鑑賞する。</p>
	<p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第12回 モダニズムの詩人たち</p> <p>20世紀に入ると、世界は「東洋」と「西洋」という世界観と共に急速に国家間の距離を縮めていく。世界を巻き込んだ初めての世界大戦が起こり、労働者階級・エリート階級のどちらにおいても人の移動が加速していった。19世紀とは全く異なる世界システムのもと、「近代」という思想が人間の生のあり方を大きく変容させた時代でもある。Gertrude Stein、Ernest Hemingway、Scott Fitzgeraldなど、アメリカで真の知性を探求することが困難に感じた知識層や芸術家が洗練されたヨーロッパ文化を求めてヨーロッパへと流れていったのもこの時代である。特に詩壇では、Ezra Pound、T. S. Eliotが新しい時代を表現する詩的言語を求めて実験を重ねた。日本の「能」に影響を受けたEliotや、俳句を彷彿とさせる Imagism という表現技法で簡潔な表現の中に深遠な意味を表現しようとしたWilliam Carlos Williamsなど、「東洋」と「西洋」の邂逅が新しい文学表現を生み出した時代の、特に「詩」について考察する。</p>
	<p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第13回 移民とアメリカ文学</p> <p>アメリカの国家的未来像は、常に移民によって創造されると言っても過言ではない。その意味で、アメリカ文学は、それぞれの時代の「移民」たちによって創造された文学でもあった。19世紀から20世紀にかけて産業革命や奴隷労働に支えられ、経済的な成長を遂げたアメリカでの生き直しを夢見てアメリカへ渡った移民も、その経験を文学に表現した。この回ではアメリカへの移民を迎え入れる象徴としての自由の女神を表現した Emma Lazarusの <i>“New Colossus”</i> という詩と、アジア系アメリカ人の中でも初期の書き手だったフィリピン系アメリカ人作家の Carlos Bulosan の短編小説 <i>“Be American”</i> を読みながら、アメリカにおける移民の問題について歴史的に概観する。</p>
	<p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第14回 アメリカ公民権運動と黒人文学</p> <p>南北戦争以後、黒人奴隷制度が廃止されてもなお、黒人に対する差別がなくなることはなかった。20世紀になると、Zora Neal Hurstonや、Richard Wrightなど優れた黒人作家が出てくるものの、黒人の作家や詩人が評価されるまでには、1960年代の公民権運動を経なくてはならなかった。この回ではRalph Ellisonの <i>“Invisible Man”</i> の第1章に描かれた黒人差別の過酷な現実について学ぶ。また、アメリカの国家的大義でもある民主主義にとって公民権運動が何を意味したのか、また今日のアメリカはその大義に沿った国家となっているのかについても考察する。</p>
	<p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第15回 第二次世界大戦の記憶と日系アメリカ人文学</p> <p>公民権運動は、異なるエスニック集団のアメリカにおける歴史的歩みを可視化し、それぞれの民</p>

	<p>族の声語る物語を再構築しようとするポストモダニズムの思想をバックボーンとして、多文化主義文学 (multicultural literature) というアメリカ文学観を生じさせることとなった。この回では、黒人、アジア系、ヒスパニック系 (チカーノ)、アメリカ先住民など、アメリカ社会における多層的な声の中から、特に日系アメリカ人のあゆみと文学に着目する。日系アメリカ人の文学は、日系アメリカ人が第二次世界大戦で日本がアメリカの敵国となったために強制収容所へ送られた経験と深く関わる。この強制収容のトラウマ的歴史経験が、日系アメリカ人の文学やアイデンティティにどのように影響したのかについて、Janice Mirikitaniの詩や、Jane Wakatsuki Houston と James Houstonが執筆した「Farewell to Manzanar」に記録された強制収容経験の物語を通して学ぶ。また、この回の次の回は定期試験であることから、定期試験の形式や復習の方法についても指導する。</p> <p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された資料を読み、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について自分なりに理解する。</p> <p>第16回 定期試験 第1回から第15回までの授業を網羅した内容の定期試験を実施する。</p> <p>【事前学習】 第1回から第15回までの授業で学んだことをしっかり振り返る。</p> <p>【事後学習】 この科目でアメリカ文学について学んだことを自分なりに理解する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	授業で配付するハンドアウト。その他のテキストについては随時告知する。
参考書	亀井俊介著『アメリカ文学史講義』1～3巻、南雲堂 1998年
評価方法	定期試験50%、コメントシート40%、レスポンスなどを含む授業への参加貢献度10%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。
オフィスアワー	<p>1) 授業開始前および授業終了後に質問を受付けます。</p> <p>2) メールで質問に答えます。メールアドレスは初回の講義で配布するシラバスに記載します。</p>
課題に対するフィードバック方法	毎回の講義で書くコメントシートはA, B, C, D, F で評価して期末試験前に返却する。

講義科目名称： 米国文学作品研究

授業コード：

英文科目名称： Readings in American Literature

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
崎原 千尋			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT321		
添付ファイル			
ルーブリック (米国文学作品研究) .xlsx		アメ文評価基準ルーブリック	

授業のテーマ及び到達目標	<p>アメリカ文学作品を通して、アメリカ社会をrace (人種)、gender (ジェンダー)、class (階級)、sexuality (セクシュアリティ) という視点から分析し、アメリカ社会・文化の多様性についてマイノリティの視点から考察する。</p> <p>【技能・表現】英語で書かれた文学作品を読む作業に取り組み、textual analysis (テキスト分析) ができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>(1) 文学作品を米国の (特にマイノリティを主体とした) 文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせることができる。</p> <p>(2) 文学作品を通してrace, gender, class, sexuality の基礎概念が理解できる。</p> <p>(3) 文学作品で扱われているテーマ・トピックと沖縄の歴史、文化を比較する視点から議論することができる。</p> <p>【関心・意欲】</p> <p>(1) 翻訳だけに頼るのではなく、原書で読むことにも挑戦し、物語をしっかりと読むことができる。</p>
授業の概要	<p>(概要)</p> <p>グループで文学作品のチャプターを担当し、割り当てられた箇所の概要や分析、感想をシェアしながら読み進める。</p> <p>(授業方法)</p> <p>読み進める中で、①作者やと文学作品に関する時代背景、②race, gender, class, sexuality の分析概念、③文学の分析方法の基礎 (textual analysis) を学ぶための講義及びグループワークを盛り込む。Google Classroom を利用して関連資料やグループディスカッションをシェアする。担当グループはディスカッションリーダーをつとめる。各セクション (3回) の課題Paper (日本語・英語) を提出する。</p>
授業計画	<p>第1回 インタロダクション：アメリカにおけるマイノリティ/エスニック文学と社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的や評価の仕方、課題の確認を行う。 ・文学を学ぶ意義：アメリカ文学から何を学ぶのか？ ・アメリカにおけるマイノリティ/エスニック文学の位置づけや潮流について概観する。 ・グループ分けと担当セクションの確認を行う。 ・プロットと人物分析 (character analysis/point of view)の方法を学ぶ。 <p>【事前学習】これまで読んだことのある (あるいは知っている) アメリカ文学、物語についてまとめておく。</p> <p>【事後学習】配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>第2回 Zora Neale Hurston, "Their Eyes Were Watching God" (1)</p> <p>【Chapter 1-2】 【Chapter 3-4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Hurston (1901-1960) のバイオグラフィと彼女の生きた時代背景を把握する。 ・特に1930年代初頭のHarlem Renaissance運動について、アメリカにおける文学と社会・政治との関わりについて学ぶ。 ・作品の中の登場人物と背景を把握する。 <p>【事前学習】当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。</p> <p>【事後学習】配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>第3回 Zora Neale Hurston (2)</p> <p>【Chapter 5】 【Chapter 6】 【Chapter 7-8】 【Chapter 9-10】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。 <p>【事前学習】当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。</p> <p>【事後学習】配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>第4回 Zora Neale Hurston (3)</p> <p>【Chapter 11-12】 【Chapter 13-14】 【Chapter 15-16】 【Chapter 17-18】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。 <p>【事前学習】当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。</p> <p>【事後学習】配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>第5回 Zora Neale Hurston (4)</p> <p>【Chapter 19】 【Chapter 20】 【Hurston まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。

	<p>明を行う。</p> <p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。</p> <p>【事後学習】 課題Paper #1</p>
第6回	<p>Toni Morrison, "The Bluest Eye" (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Morrison (1931-) のバイオグラフィと彼女の生きてきた時代背景を把握する。特に1960年代のCivil Rights Movement (公民権運動) について、アメリカにおける文学と社会・政治との関わりについて学ぶ。 ・作品の中の登場人物と背景を把握する。 <p>【Prologue】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。
第7回	<p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>Toni Morrison (2)</p> <p>【Autumn: Chapter 1】 【Autumn: Chapter 2】 【Autumn: Chapter 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。
第8回	<p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>Toni Morrison (3)</p> <p>【Winter: Chapter 4】 【Winter: Chapter 5】 【Spring: Chapter 6】 【Spring: Chapter 7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。
第9回	<p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>Toni Morrison (4)</p> <p>【Spring: Chapter 8】 【Spring: Chapter 9】 【Summer: Chapter 10】 【Summer: Chapter 11】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。
第10回	<p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>まとめ: African American Women's Literature</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Morrisonのまとめ ・Hurstonの作品と共通するテーマについてディスカッションを行う。 ・課題paper #2の説明を行う。
第11回	<p>【事前学習】 これまでのワークシートをまとめておく。 【事後学習】 課題Paper #2</p> <p>Sherman Alexie, "The Absolutely True Diary of A Part-Time Indian" (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカにおけるNative Americansの措置について ・Native American Literatureの位置づけや潮流を概観する ・作家について (バイオグラフィ) ・作品の時代背景や舞台設定について
第12回	<p>【事前学習】 ネイティブ・アメリカンについて知っていること、イメージを書き出しておく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>Sherman Alexie (2)</p> <p>【Chapter 1-3】 【Chapter 4-6】 【Chapter 7-9】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。
第13回	<p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>Sherman Alexie (3)</p> <p>【Chapter 10-12】 【Chapter 13-15】 【Chapter 16-18】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。
第14回	<p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。 【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>Sherman Alexie (4)</p> <p>【Chapter 19-21】 【Chapter 22-24】 【Chapter 25-27】 【Chapter 28-30】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられたグループで各セクションを読み (抜粋)、プロットの流れ、主要登場人物、キーワード (事前に提供) について発表する。その後に全体でディスカッション、講義で補足説明を行う。

	<p>明を行う。</p> <p>【事前学習】 当日読むセクションを和訳を活用しながら、必ず前もって読んでおく。 発表担当グループはdiscussion questionsについて準備しておく。</p> <p>【事後学習】 配布したワークシートを調べ学習をして仕上げる。</p> <p>まとめ：Native American Literature</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Sherman Alexieまとめ ・ ネイティブ・アメリカン文学の意義についてディスカッションを行う。 ・ 課題paper #3についての説明 <p>【事前学習】 これまでのワークシートをまとめておく。</p> <p>【事後学習】 課題Paper #3</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>Zora Neale Hurston, Their Eyes Were Watching God (1937)</p> <p>Toni Morrison, The Bluest Eye (1970)</p> <p>Sherman Alexie, The Absolutely True Diary of a Part-Time Indian (2007)</p>
参考書	<p>ゾラ・ニール・ハーストン著、松本昇訳『彼らの目は神を見ていた』（新宿書房）</p> <p>トニ・モリスン著、大社淑子訳『青い眼がほしい』（早川書房）</p> <p>シャーマン・アレクシー著、さくまゆみこ訳『はみだしインディアンのホントにホントの物語』（小学館）</p> <p>クラスで適宜、資料を配布またはGoogle Classroomを通じて資料や課題をシェアする。</p>
評価方法	<p>課題Section Paper (20% x 3回) 60%</p> <p>担当セクションでの発表 30%</p> <p>授業態度 10%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	「米文学史」を履修していることが望ましい（必須ではない）。
オフィスアワー	毎週火曜日、金曜日 お昼休み—3限目 崎原研究室（西2-7）
課題に対するフィードバック方法	<p>課題やプリントは評価して（採点・評価後）返却する。</p> <p>期末エッセイは、評価後、各自のメールボックスへ返却する。</p> <p>Google Classroomを通じて提出されたもの（google doc）はPDFデータで返却する。</p>

講義科目名称： 英国文学作品研究

授業コード：

英文科目名称： Readings in British Literature

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT311		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	19世紀イギリスの政治・社会状況を把握しつつ、イギリス文学への造詣を深める。作家及び作品の研究、精読の仕方、時代背景の読み解き方についての基礎を学び、基本的な文学研究論考やエッセイが執筆できるようになる。Jane Eyre (1857) に見られるさまざまな英語表現に親しみ理解している。
授業の概要	Charlotte Bronte の Jane Eyre (1857) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題及び概要発表並びに課題箇所についての討論を行う。Jane Eyreの作家、作品、時代背景などについての小論文を各自でひとつ完成させる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 『概説イギリス史』より「19世紀の光と影」 【事前学習】なし 【事後学習】講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第2回 I-III (1～3), p. 9-32 孤児ジェーンのリード家(ゲイツヘッド)での境遇 『はじめての構造主義』より橋爪、『現代思想の冒険』より竹田 【事前学習】テキスト1～3章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第3回 IV-VII (4～7), p. 33-80 ミセス・リードに立ち向かう幼いジェーン/ヘレン・バーンズとの出会い(ローウッド) 【事前学習】テキスト4-7章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第4回 VIII-XI (8～11), p. 81-127 ヘレン・バーンズとミセス・リードの死/ソーンフィールドへ到着 「中心と終焉の消滅」大橋 【事前学習】テキスト8-11章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第5回 XII-XV (12～15), p. 128-177 ロチェスターとの親交と館の謎 【事前学習】テキスト12-15章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第6回 XVI-XVII (16～17), p. 178-210 ミス・イングラム登場 「フェミニズムからの呼びかけ」大橋 【事前学習】テキスト16-17章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第7回 アヘン交易とユートピア幻想① 18世紀後半から19世紀前半にかけてのカントン貿易システムとイギリスの三角貿易のなりたちを概説する。 【事前学習】アヘン戦争についてある程度調べておく。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第8回 アヘン交易とユートピア幻想② 1816年に那覇を訪れたライラ号とアルセスト号がどのように琉球を表象したのか、同じアジアの国でありながら清朝中国の描写とはいかに異なっていたのか、時代背景とロマン主義文学との関係で解き明かす。 【事前学習】幕末の琉球の対西洋外交についてある程度調べておく。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第9回 XVIII-XX (18～20), p. 211-253 何者かに襲われるロチェスター 『フロイトの精神分析』より鈴木 【事前学習】テキスト18-20章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p> <p>第10回 XXI-XXIII (21～23), p. 254-296 ミセス・リードの死/柵の木のそばのシーン 【事前学習】テキスト21-23章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。</p>

第11回	XXIV-XXVI (24~26), p. 297-342 結婚式の中止とバーサ・メイスン 「無意識の発見」大橋 【事前学習】テキスト24-26章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。
第12回	XXVII-XXVIII (27~28), p. 343-388 ソーンフィールドからの脱出 【事前学習】テキスト27-28章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。
第13回	XXIX-XXXII (29~32), p. 389-434 リバース家での暮らし/セント・ジョンとの関係 「悲しきシェイクスピア」中尾 【事前学習】テキスト29-32章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。
第14回	XXXIII-XXXIV (33~34), 435-472 セント・ジョンの求婚 【事前学習】テキスト33-34章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。
第15回	XXXV-XXXVIII (35~38), p. 473-521 ソーンフィールドへ帰る 【事前学習】テキスト35-38章に目を通す。 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。
第16回	まとめ&期末テスト 【事前学習】これまでの学びを振り返り、期末テストの準備をする。 【事後学習】なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/>
テキスト	Bronte, Charlotte. Jane Eyre. New York: Penguin
参考書	『新版 概説イギリス史 伝統的理解をこえて』青山吉信、今井宏 編 有斐閣 1996年 『ユリイカ』9月号 第34巻第11号 青土社 2002年9月 英文 J. サザランド 『イギリス小説の謎』編注者 藤原浩一、高谷修 英宝社 2004年 『新英文学入門-T・イーグルトン「文学とは何か」を読む』大橋洋一著 岩波書店 2004年 『知の教科書 批評理論』丹治 愛編 講談社 2006年
評価方法	試験 30% 学習ノート 40% (8回分をカウントする) 小論文 30% (期末テスト) *学習ノートには、講義の概要に加えて、自分のコメントや感想、考察を記入する (A4、1枚程度)。 *授業日数の3分の1を超えて欠席しないこと。 *3回の遅刻は1回の欠席と見なす。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点~90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点~80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点~70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	『英文学史』 (History of British Literature) を履修しているほうが望ましい。
オフィスアワー	毎週月曜日 (13:00~14:30) 研究室 できれば、事前にメール予約をお取りください。 メールアドレス: hamagawah@oc.jc.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	学習ノートは毎回、採点したのちクラス内で返却し、試験は採点したあとでメールボックスに返却する。

講義科目名称： English Communication V

授業コード：

英文科目名称： English Communication V

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Valvona/Praske・Duckworth/Nieuburt・Gayler/小久保・Valvona/Arbogast・Terre/Latham			
授業形態：演習	ナンバリング：EOC214		
添付ファイル			
Rubric for English Communication V.xlsx			

授業のテーマ及び到達目標	<p>This is the highest level of English Communication. This means that students should be aiming to communicate (in both written and spoken assignments) solely in English, using language that is well-formed, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. The principal aim is, as with all other levels of English Communication, to actually *use* English and communicate a message, and to develop their communication in terms of all four skills (reading, writing, listening, speaking). Students should also aim to have found their own 'right way' to study in the future.</p> <p>By the end of English Communication V, students will be able to give and understand both written and spoken explanations of unfamiliar cultural practices and customs, and also understand main points of extended dialogues and texts. Students will be able to give opinions and exchange information, and also maintain a sustained interaction in English, without confusing the person with whom they interact.</p>
授業の概要	<p>This class will provide a bridge to medium and higher-level English courses including Debate & Discussion, Advanced Writing and Advanced Communication. Students will focus on developing the ability to accurately understand more complex, longer pieces of information, and then properly express themselves based on such information. Through numerous activities including writing and performing role-plays, debate and discussion, presentation, writing reports and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and so on.</p> <p>Rather than explicitly teaching grammar, vocabulary, etc., topics will be presented to students as starting points for the various communicative activities that follow, and students will receive guidance, instruction and feedback from the teacher.</p> <p>There will be a task-based project for students to practice both written and spoken English meaningfully.</p>
授業計画	<p>第1週 Refreshing and meeting again Teachers will refresh students knowledge of classroom English, core pronunciation (minimal pairs, liaison), and will provide communicative activities to introduce the teacher, and to (re)introduce the students to each other. The communicative activities will also serve as a reminder to students of the communicative skills and strategies developed in earlier English Communication classes, in preparation for the topics to come in the following weeks. Students will also be asked to reflect on their aims and goals for the coming class, and to express these both orally and in writing. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous semester. 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.</p> <p>第2週 Cosmetic Surgery & Personal Relationships After warm-up discussion questions related to cosmetic surgery and best friends, students listen to and read a dialogue about cosmetic surgery, and a monologue about the distinction between friendship and romantic relations. Key vocabulary such as drastic, beg, wit, attract, confused, and lovers are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.</p> <p>第3週 Environment & Rules After warm-up discussion questions related to global warming and household rules, students listen to and read a dialogue about using air conditioners, and a dialogue about mother-daughter tensions over household rules. Key vocabulary such as CO2, chill out, air conditioning, fed up with, acceptable, and push s.o. are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.</p> <p>第4週 Plagiarism & Household Chores After warm-up discussion questions related to plagiarism and housework, students listen to and read a dialogue about plagiarism, and letters to a counselor regarding relationship troubles caused by housework. Key vocabulary such as reference, impression, plagiarize, persuade, calculate, and postpone are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions</p>

presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第5週

Abortion & Taboo Professions

After warm-up discussion questions related to abortion and jobs after university, students listen to and read a monologue about abortion, and a monologue about supplementing income by being an escort. Key vocabulary such as abortion, pregnant, horrified, escort, confess, and deny are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第6週

Body Art & Adult Children

After warm-up discussion questions related to appearance / fashion and when people should start taking more responsibility for their lives, students listen to and read a dialogue about body art, and a radio show about adults who continue to live with their parents. Key vocabulary such as weird, overreact, loosen up, trend, creepy, and spoiled are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第7週

Workplace Relations & Culture Shock

After warm-up discussion questions related to whether students prefer a male/female doctor/teacher/boss, and what students like about their country, students listen to and read a dialogue about a workplace dilemma, and a dialogue about culture shock. Key vocabulary such as update, inappropriate, mess up, take advantage of, hassle, and open-minded are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第8週

Career Choice & Xenophobia

After warm-up discussion questions related to what jobs students want to do in the future, and immigration in students' home country, students listen to and read a dialogue about a job opportunity dilemma, and a magazine article expressing a xenophobic opinion of immigration. Key vocabulary such as dynamic, scandal, promotion, immigrant, vote, and citizen are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第9週

Technology & Female Liberation

After warm-up discussion questions related to technology/communication and the extent to which mothers work, students listen to and read a dialogue about technology interfering with personal relations, and a magazine article about the role of women in society. Key vocabulary such as network, snuggle, convenience, controversial, guidance, and suited are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第10週

Compromise & Peace-making

After warm-up discussion questions related to stereotypical gender roles and war, students listen to and read a dialogue about expectations within marriage, and a blog article about life in a war zone. Key vocabulary such as disaster, assume, compromise, injustice, dignity, and ashamed are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week.

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

第11週

Stalking & Divorce

After warm-up discussion questions related to love at first sight and divorce, students listen to and read a monologue about stalking, and a monologue about divorce. Key vocabulary such as admirer, stalking, harmless, divorce, resentful, and move in are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical

	<p>thinking and discussion skills.</p> <p>【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.</p> <p>第12週 Review of topics and task-based project (1) All of the topics covered in the class are reviewed, and students collectively decide on the most interesting and engaging topics - these will be used for a final interview in week 15. The teacher also introduces a task-based project that will continue until the end of the semester. The nature of the project will vary depending on the teacher; as an example, students could think up a new invention to improve their lives, and in groups film (and edit) an advertisement to sell this to other people. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Work on task/project and prepare for final interview.</p> <p>第13週 Task-based project (2) Work on the task-based project continues in this week, as does preparation of any performance element that is to be given the following week. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Work on task/project and prepare for final interview.</p> <p>第14週 Explanation of final assessment and preparation As well as explaining to students about the final interview assessment in week 15, students show/perform the results of their work on the task based project over the previous weeks. Any remaining time is given to students to prepare in groups for the final assessment. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Work on task/project and prepare for final interview.</p> <p>第15週 Final assessment The final interview assessment is carried out. Students meet with the teacher in groups and discussion of one or more of the topics covered in the semester is carried out in detail, with students looking to display knowledge and understanding of the topics, as well as the communicative ability to express their ideas freely. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Prepare for final interview.</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目【0】</p> <p>3) ICTの活用【0】</p> <p>4) 初年次教育【0】</p>
テキスト	Impact Issues 3 (Day, Shaules, Yamanaka: Pearson Longman)
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称： Advanced Communication I

授業コード：

英文科目名称： Advanced Communication I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			
授業形態：演習	ナンバリング：A0C317		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>The goal of this class is to provide a more challenging communicative environment for students whose English is already at intermediate level, or higher. The fundamentals of communication, including correct pronunciation, will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials and teaching.</p> <p>The primary goal of this course is to increase students' communicative confidence and to develop their general fluency in using English. A secondary goal is to develop practical work-related skills such as working in teams, giving presentations, preparing written reports and handouts, and more. Another secondary goal is to develop workplace-related vocabulary, expressions, and general pragmatic awareness.</p>
授業の概要	<p>This task-based course simulates the experience of working in an English-speaking company. In this course, students brainstorm new product ideas, pitch their ideas within the company, perform market research, design an ad campaign, and participate in a job interview. The course starts with quite easy tasks, but quickly builds toward more challenging projects. Students must work in small teams to complete these projects, while taking turns being the project manager for their team. Active participation in English is required. Students should expect to do 60-90 minutes of preparation work outside of class each week, and also to attend class actively and regularly.</p>
授業計画	<p>第1回 Stage 1 (Company orientation) Student Book p. 2-7 【事前学習】 Review communication skills from previous communication classes 【事後学習】 Review lesson contents</p> <p>第2回 Stage 1 (Company orientation (cont'd)) SB p. 8-11 【事前学習】 Review previous class 【事後学習】 read p.13-14, think of ideas p.14 (D)</p> <p>第3回 Stage 2 (About R&D) SB p.12-17 【事前学習】 Finish homework 【事後学習】 problems and solutions list on p. 17</p> <p>第4回 Stage 2 (Brainstorming) SB p.18-25 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 finish proposal and elevator pitch</p> <p>第5回 Stage 3 (SWOT Analysis) SB p.26-31 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 complete the table on p.32 (A)</p> <p>第6回 Stage 3 (Task Prep) SB p.32-37 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 complete product memo and prepare poster</p> <p>第7回 Stage 3 (Poster Presentation) SB p.38 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 read p.41</p> <p>第8回 Stage 4 (About Market Research) SB p.40-47 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 conduct focus group or survey</p> <p>第9回 Stage 4 (Data Analysis) SB p.48-53 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 finish report, read p.57</p> <p>第10回 Stage 5 (About Adverts)- SB p.56-62 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 prepare several types of ad for the product</p> <p>第11回 Stage 5 (Prepare video commercial) SB p.62-69 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 finish video commercial</p> <p>第12回 Stage 5 (Ad Campaign Presentation) SB p.70</p>

	<p>【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 read/complete p.74</p> <p>第13回 Stage 6 (Write a Resume) SB p. 75-77 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 complete a resume</p> <p>第14回 Stage 6 (write a cover letter) SB p. 77-79 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 complete a cover letter</p> <p>第15回 Stage 6 (Job Interviews) SB p. 80-82 【事前学習】 Finish HW 【事後学習】 Complete self-evaluation</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【0】 2) 情報リテラシーに関する科目 【0】 3) ICTの活用 【0】 4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	Widgets: A task-based course in workplace English. (2018, Atama-ii Books). Authors: Marcos Benevides and Chris Valvona. ISBN: 9781941140000. Distributor: englishbooks.jp
参考書	A dictionary (paper or electronic).
評価方法	Class attendance and participation, presentations, and an end-of-semester speaking test. Grades will be based upon the school grading policy
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	This course simulates the practical experience of working in an English-speaking company. Therefore, students will be graded partly on how well they try to meet appropriate professional norms. · In-class participation and out-of-class preparation are both required to do well in this course. Students who are often absent, or who refuse to participate in class, may find it difficult to pass. · Each student must schedule a one-on-one interview with the teacher after they have been project manager for their team. Normally this will be done outside of class time.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email. Teacher-, self- and peer-evaluation are all built into the assessment.

講義科目名称： Advanced Communication II

授業コード：

英文科目名称： Advanced Communication II

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			
授業形態：演習	ナンバリング：A0C318		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	This class will follow on from the skills and topics learned and practiced in Advanced Communication I. The fundamentals of communication will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials and teaching. Instead, students will continue to learn about more complex elements of communication, to a deeper level. Through the course materials, instruction, and assignments, students will practice and progress in all four skills (reading, writing, listening, and speaking) to a higher level.
授業の概要	This is a class for students who have already passed basic and intermediate reading, writing (grammar), and communication classes, and also Advanced Communication I. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who take this class, and students who are not yet comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class. The classes will focus on specific higher-level elements of English communication, both verbal and written. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.
授業計画	<p>第1回 Tact</p> <p>【事前学習】 Review all skills covered in previous English communication classes 【事後学習】 Complete tact situation cards and sentences</p> <p>第2回 Diplomacy</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Complete diplomacy roleplay</p> <p>第3回 Euphemisms</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Rewatch youtube video and write own euphemisms</p> <p>第4回 Political Correctness</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Find examples of politically correct language or behavior in modern life</p> <p>第5回 Persuasion</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Complete persuasion roleplay dialogue and practice</p> <p>第6回 Advertising</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Find examples of subliminal or alternative advertising</p> <p>第7回 Rhyme, alliteration, assonance</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Create own original examples of slogans, jingles, mottos etc that use the language forms covered in class.</p> <p>第8回 Advertising (practical)</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Prepare for the midterm assignment</p> <p>第9回 Mid-term assignment (pres.)</p> <p>【事前学習】 Prepare for the midterm assignment 【事後学習】 Evaluate midterm presentations (self and peer)</p> <p>第10回 Humour</p> <p>【事前学習】 Think of what makes people in Japan laugh 【事後学習】 Find examples of humour in foreign contexts</p> <p>第11回 Humour (cont' d)</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Reflect on regional variations of accents and dialect in Japan.</p> <p>第12回 Accents</p>

	<p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Find example of strong regional differences among English pronunciation</p> <p>第13回 Conversational strategies</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Complete roleplay demonstrating strategies learned in class</p> <p>第14回 Negotiation</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Prepare for a negotiation activity in the next class</p> <p>第15回 Negotiation (cont'd)</p> <p>【事前学習】 Review previous class and complete homework preparation 【事後学習】 Reflect on the semester and perform self-evaluation</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【0】 2) 情報リテラシーに関する科目 【0】 3) ICTの活用 【0】 4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	Materials are provided by the teacher
参考書	Good paper or electronic dictionary
評価方法	Class participation, presentations and group projects, short tests (quizzes), end-of-semester assignment, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy.
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	This is a high-level course. Students should enter this course with a reasonable proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.
オフィスアワー	月曜日10:40~12:10、金曜日10:40~12:10
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email.

講義科目名称： The Post-American World

授業コード：

英文科目名称： The Post-American World

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
David Ulvog			
授業形態：演習	ナンバリング：A0C321		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 The objective of this course is to have students develop a better understanding of and discuss how principles, movements and events, which have been taken place in the United States, have influenced and been influenced by other countries economically, industrially and culturally.</p> <p>【到達目標】</p>
授業の概要	<p>This is a high-level content-based class for students who have successfully completed intermediate classes and are ready to study subjects in English. The classes will be conducted in the form of lectures and class discussions. There will also be group workshops in which students discuss, analyze and present their ideas in English. Students will learn about various aspects of the United States, and choose topics to investigate further and give presentations on as their mid-term and final assignments. There will also be written assignments and short reports, which will be submitted for grade.</p>
授業計画	<p>第1回 Orientation The first class will provide a general introduction to the United States, its place in the world and influence. The class will be conducted in a dialogue style, so please be ready to contribute! 【事前学習】 Think about what you know about the United States. What are things you would like to know? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>第2回 Rights in the U.S. What are the rights guaranteed in the United States? Where did they originate? How did they influence other countries/organizations? 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>第3回 Women's suffrage Why did women previously not have the right to vote? How did they secure the right to vote? What impact has that had on society? 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>第4回 Slavery's legacy & Civil Rights Why and how did slavery develop? What were the conditions of slavery? Why was it abolished? Why and how did the civil rights movement develop? What has this movement accomplished? 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>第5回 2nd Amendment and Social Realities What is the 2nd amendment? Why is gun ownership such a passionate topic in the U.S.? 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>

第6回	<p>Student Presentations: Mid-Term Students will given presentations on select topics.</p>
第7回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>Religion in America What role has religion had in the U.S.? What is has been its significance and impact?</p>
第8回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>McDonalds & Commodification What is McDonalds' business model? Why and how has it been adapted and applied to other businesses and industries?</p>
第9回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>Radio, Television and the Internet What role have radio, television and the internet played in U.S. society? Why are they important?</p>
第10回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>Immigration and Ethnic Groups How has immigration contributed to the development of the U.S.? Although most Americans are descended from immigrants, how is immigration viewed today?</p>
第11回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>Economics and Social Status This class will discuss economics and social status, their significance and relationship.</p>
第12回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>U.S. Exports & Imports (Case Study) This class will use a case study to illustrate the role that exports and imports play in the current U.S. economy and over U.S. history.</p>
第13回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>Abortion: Pro-Life v. Pro-Choice Why is abortion such a passionate topic in the U.S.? What has been the impact of this debate?</p>
第14回	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>Education How is education structured in the U.S.? How has it contributed to the country's development? What issues does education face over the coming years?</p>

	<p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>第15回 Future Relations: US and the World What issues does the U.S. face in its relations with the world over the coming years?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>第16回 Student Presentations: End of Term Students will given presentations on select topics.</p> <p>【事前学習】 Prepare for presentations 【事後学習】 Review instructor's comments and feedback from other students.</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	Materials provided by the instructor
参考書	The Post-American World by Fareed Zakaria Students will also benefit from regular readings of newspapers and periodicals.
評価方法	<p>1) Individual and/or group presentations 60%</p> <p>2) Quizzes and reports 25%</p> <p>3) Class participation 15%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Students should be prepared and actively participate in class discussions.
オフィスアワー	毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室
課題に対するフィードバック方法	The instructor will provide feedback to the students about each of their presentations, reports and tests.

講義科目名称： 英語講読演習VI

授業コード：

英文科目名称： English Reading VI

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
崎原千尋・レイフィールド典子・宜野座綾乃			
授業形態：演習	ナンバリング：ARE215		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 英文テキスト読解における高度なスキル（文法、構文、語彙力）を身につけ、内容を日本語で説明できる。</p> <p>(2) 授業外での復習の習慣をつけ、演習問題の取組みを通じて英検やTOEICに対応できる読解力をつける。</p> <p>(3) アクティブ・リーディングを通じて自律的に読めるようになる。また、ペアワークやグループ活動に参加できる。</p> <p>(4) 英文テキストの精読を通して、様々なトピックにおける興味関心を広げることができる。</p>
授業の概要	<p>本授業では、英文テキストの精読を通じて語彙の習得や文法、構文を理解し、英語講読の基礎スキルを習得する。使用するテキストはNational Geographic（米国で歴史のある科学雑誌）と連動された教材を使用し、自然、歴史、探検、地球環境、科学、宇宙など幅広い分野のトピックを通じて視野を広げ、ペアワークやグループ活動によって読んだ内容のアウトプットを行う。</p> <p>テキストの他には、視覚教材やプリント等の補助教材を利用して読解力の強化と共に演習問題への取組みを行う。また、授業外で予習・復習する習慣をつけ、英語検定試験（STEP）準1級、TOEIC 640程度のレベル達成を目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 Introduction & Unit 1A Introduction to the Course ・授業の内容や進め方、評価方法等について ・予習・復習の仕方</p> <p>1A “The Visual Village” (pp. 8-11) ・リーディング導入（音読） ・Before You Read (p. 8) ・パラグラフ・リーディング（ペア/グループワーク、ワークシート） ・Reading Skill: Understanding Words with Multiple Meanings (p. 13)</p> <p>【事前学習】 授業前にpp. 8-11を読んでおく。 【事後学習】 授業後にp. 13の復習とワークシート</p> <p>第2回 Unit 1A 1A: “The Visual Village” (pp. 8-11) ・パラグラフ・リーディング（ペア/グループワーク、ワークシート） ・Reading Comprehension (p. 12) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 14)/Word Partnership: “profound” ・Critical Thinking (p. 12) ペアでディスカッション</p> <p>【事前学習】 授業前に1A (pp. 8-11)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】 授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>第3回 Unit 1B 1B: “My Journey in Photographs by Annie Griffiths” (pp. 15-19) ・リーディング導入（音読） ・Before You Read (p. 15) ・Reading Skill: Scanning for Specific Details (p. 21) ・パラグラフ・リーディング（ペア/グループワーク、ワークシート） ・Reading Comprehension (p. 20) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 22)/Thesaurus: “thus”</p> <p>【事前学習】 授業前に1B (pp. 15-19)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】 授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>第4回 Unit 2A 2A: “Love: A chemical Reaction?” (pp. 26-29) ・リーディング導入（音読） ・Before You Read (p. 26) ・Reading Skill: Distinguishing Facts from Theories (p. 31) ・パラグラフ・リーディング（ペア/グループワーク、ワークシート） ・Reading Comprehension (p. 30) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 32)/Usage: “chance”</p> <p>【事前学習】 授業前に2A (p. 26-29)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】 授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>第5回 Unit 2B 2B: “Feathers of Love” (pp. 33-37)</p>

第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 33) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Recognizing Figurative Language (p. 39) ・Reading Comprehension (p. 38) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 40)/Thesaurus: "absurd" <p>【事前学習】授業前に2B (pp. 33-37)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>Unit 1 & 2 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1A, 1B, 2A, 2Bの内容要約とCritical Thinking (グループワーク及び発表) ・Video Viewing (Unit 1 or Unit 2)
第7回	<p>【事前学習】要約担当箇所の発表準備をする。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>Unit 3A</p> <p>3A: "How Safe Is Our Food" (pp. 44-47)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 44) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Cause and Effect Relationships (p. 49) ・Reading Comprehension (p. 48) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 50)/Word Link: "-wide"
第8回	<p>【事前学習】授業前に3A (pp. 44-47)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>Unit 3B</p> <p>3B: "Genetically Modified Foods" (pp. 51-55)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 51) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Arguments For and Against an Issue (p. 57) ・Reading Comprehension (p. 56) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 58)/Thesaurus: "diminish"
第9回	<p>【事前学習】授業前に3B (pp. 51-55)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>Unit 4A</p> <p>4A: "Design By Nature: Biomimetics" (pp. 62-66)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 62) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Recognizing Collocations (p. 68) ・Reading Comprehension (p. 67) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 69)/Word Partnership: "vital"
第10回	<p>【事前学習】授業前に4A (pp. 62-66)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>Unit 4B</p> <p>4B: "The Future of Fashion: Dreamweavers" (pp. 70-73)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 70) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Synonyms and Antonyms (p. 75) ・Reading Comprehension (p. 74) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 76)/Word Link: "fore-"
第11回	<p>【事前学習】授業前に4B (pp. 70-73)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p> <p>Unit 3 & 4 まとめ / In-Class Quiz #1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3A, 3B, 4A, 4Bの内容の確認 (宿題ワークシートを発表) <p>※In-Class Quiz #1: Unit 1-4</p>
第12回	<p>【事前学習】Unit 3-4のまとめ (宿題ワークシート) 及びTest #1(Unit 1-4)の準備</p> <p>【事後学習】Unit 1-4の復習課題 (次の授業で提出)</p> <p>Unit 5A</p> <p>5A: "The DNA Trail" (pp. 80-83)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 80) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Relative Clauses (I) (p. 85) ・Reading Comprehension (p. 84) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 86)/Word Partnership: "proof" <p>【事前学習】授業前に5A (pp. 80-83)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>

第13回	<p>Unit 5B</p> <p>5B: “Fantastic Voyage” (pp. 87-91)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 87) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Synthesizing Information (p. 93) ・Reading Comprehension (p. 92) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 94)/Thesaurus: “stubborn” <p>【事前学習】授業前に5B (pp. 87-91)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第14回	<p>Unit 6A</p> <p>6A: “Racing to Rescue Koalas” (pp. 98-101)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 98) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Recognizing Conditional Relationships (p. 103) ・Reading Comprehension (p. 102) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 104)/Word Partnership: “vibrant” <p>【事前学習】授業前に6A (pp. 98-101)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第15回	<p>Unit 6B</p> <p>6B: “For the Love of Elephants” (pp. 105-109)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 105) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Sequencing Information (p. 111) ・Reading Comprehension (p. 110) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 112)/Word Partnership: “chaos”
第16回	<p>Unit 5 & 6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5A, 5B, 6A, 6Bの内容要約とCritical Thinking (グループワーク及び発表) ・Video Viewing (Unit 5 or Unit 6) <p>【事前学習】要約担当箇所の発表準備をする。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第17回	<p>Unit 7A</p> <p>7A: “A Crowd in Harmony” (pp. 116-119)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 116) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Words from Context (p. 121) ・Reading Comprehension (p. 120) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 122)/Word Link: “gress” <p>【事前学習】授業前に7A (pp. 116-119)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第18回	<p>Unit 7B</p> <p>7B: “Why We Celebrate” (pp. 123-127)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 123) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Word Roots and Affixes (p. 129) ・Reading Comprehension (p. 128) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 130)/Thesaurus: “striking” <p>【事前学習】授業前に7B (pp. 123-127)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第19回	<p>Unit 8A</p> <p>8A: “Who Killed the Emperor?” (pp. 134-138)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 134) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Evaluating Theories (p. 140) ・Reading Comprehension (p. 139) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p. 141)/Usage: “grand” <p>【事前学習】授業前に8A (pp. 134-138)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。</p> <p>【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第20回	<p>Unit 8B</p> <p>B: “In the Lab with Marcella and Alphonse” (pp. 142-145)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p. 142) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Idiomatic Expressions (p. 147) ・Reading Comprehension (p. 146)

	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.148)/Word Link: "leg" <p>【事前学習】授業前に8B (pp.142-145)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第21回	Unit 7 & 8 まとめ / in-Class Quiz #2 <ul style="list-style-type: none"> ・7A, 7B, 8A, 8Bの内容の確認 (宿題ワークシートを発表) ※In-Class Quiz #2: Unit 5 8
第22回	Unit 9A <p>9A: "Virtually Immortal" (pp.152-155)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.152) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Recognizing the Use of Ellipsis (p.157) ・Reading Comprehension (p.156) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.158)/Word Partnership: "virtual" <p>【事前学習】授業前に9A (pp.152-155)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第23回	Unit 9B <p>9B: "In Search of Genghis Khan" (pp.159-163)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.159) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Relative Clauses (II) (p.165) ・Reading Comprehension (p.164) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.166)/Word Partnership: "exception" <p>【事前学習】授業前に9B (pp.159-163)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第24回	Unit 10A <p>10A: "Black Holes" (pp.170-173)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.170) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Visualizing from an Author's Description (p.175) ・Reading Comprehension (p.174) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.176)/Thesaurus: "preposterous" <p>【事前学習】授業前に10A (pp.170-173)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第25回	Unit 10B <p>10B: "The Threat from Space" (pp.177-181)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.177) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding References to Things Beyond the Text (p.183) ・Reading Comprehension (p.182) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.184)/Word Link: "di" <p>【事前学習】授業前に10B (pp.177-181)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第26回	Unit 9 & 10 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・9A, 9B, 10A, 10Bの内容要約とCritical Thinking (グループワーク及び発表) ・Video Viewing (Unit 9 or Unit 10) <p>【事前学習】要約担当箇所の発表準備をする。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第27回	Unit 11A <p>11A: "Water Worries" (pp.188-191)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.188) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Identifying Sources of Information (p.193) ・Reading Comprehension (p.192) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.194)/Thesaurus: "leak" <p>【事前学習】授業前に11A (pp.188-191)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第28回	Unit 11B <p>11B: "Technology as Trash" (pp.195-199)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.195)

	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding a Writer's Attitude and Bias (p.201) ・Reading Comprehension (p.200) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.202)/Word Partnership: "substance" <p>【事前学習】授業前に11B (pp.195-199)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第29回	Unit 12A 12A: "Genes, Health, and Lifespan" (pp.206-209) <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.206) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Identifying Reasons (p.211) ・Reading Comprehension (p.210) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.212)/Word Link: "gen" <p>【事前学習】授業前に12A (pp.206-209)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第30回	Unit 12B 12B: "In Search of Longevity" (pp.213-217) <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング導入 (音読) ・Before You Read (p.213) ・パラグラフ・リーディング (ペア/グループワーク、ワークシート) ・Reading Skill: Understanding Quantitative and Qualitative Data (p.219) ・Reading Comprehension (p.218) ・単語テスト/Vocabulary Practice (p.220)/Word Partnership: "relief" <p>【事前学習】授業前に12B (pp.213-217)を読み、わからない単語を調べる。ワークシートに沿って予習する。 【事後学習】授業後にワークシートの演習問題を解く。次の授業で提出する。</p>
第31回	Unit 11 & 12 まとめ / In-Class Quiz #3 <ul style="list-style-type: none"> ・11A, 11B, 12A, 12Bの内容の確認 (宿題ワークシートを発表) ※In-Class Quiz #3 Unit 9-12 <p>【事前学習】Unit 11-12のまとめ (宿題ワークシート) 及びTest #3 (Unit 9-12)の準備 【事後学習】特になし</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/>
テキスト	Paul MacIntyre and David Bohlke. Reading Explorer 4. Second Edition. National Geographic Learning, 2015.
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法	テスト 60% クイズ、ワークシート、課題 15% 発表、発言、ペアワーク等 15% 予習、復習の取組み 10%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	講義の中ではもっともハイレベルな内容なので、しっかりついていくためにも、授業外の学習をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各教員とアポイントメントを取ること。
課題に対するフィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内で返却する。

講義科目名称： Current Issues Online

授業コード：

英文科目名称： Current Issues Online

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
授業形態：演習	ナンバリング：ARE227		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this course is to improve students' English and online learning abilities to increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally. Successful students will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.
授業の概要	This course is conducted almost entirely online. Students will use email as well as internet sites to participate. By the end of this course, students should be more comfortable working and learning in an online environment, as well as have developed a greater understanding of current issues of importance. Students should also have developed a greater ability in thinking, talking, and writing about these issues. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
授業計画	<p>第1回 The what, why and how of online learning Visit the Google Classroom online throughout the semester to access content and to respond to the media and critical questions. Topic: "Greetings and Introductions" DIRECTIONS: Post a brief introduction of yourself that tells: a. where you are from b. what your major study is c. what you want to learn from this course d. what you plan to do after graduation e. what your favorite food is ASSIGNMENT Visit the Google Classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>第2回 Reproduction Right and Responsibilities Topic "Reproduction Right and Responsibilities" ASSIGNMENT DIRECTIONS: Watch the YouTube videos to express your opinion about the issue of Japan's declining population. Discuss in a Google Doc what you feel is the heart of the problem, and what you think can be done to fix this growing problem. Reproduction Issues - Video #1 http://www.youtube.com/watch?v=59tv16mJGrQ&feature=fvw Reproduction Issues - Video #2 http://www.youtube.com/watch?v=eQNglI0DrhE&feature=channel</p> <p>第3回 Bullying in Schools and the Workplace The class materials for this week are two YouTube videos and a website dedicated to stopping bullying. ASSIGNMENT Share your memory of an experience that you have personal knowledge of that involved bullying. Discuss why you think it happened and how it could have been prevented or stopped. Offer a solution on how bullying anywhere can be prevented today. Video #1 https://www.youtube.com/watch?v=nWJut7KQhI4 Video #2 http://www.youtube.com/watch?v=wY7Gvq0P4hc&feature=related</p> <p>第4回 Hikikomori ASSIGNMENT</p>

Please read the article from the New York Times, which is a little long but quite good, and the Youtube video, which is about how some people who suffered from hikikomori were helped by religion. Also, there is a link to the NHK site about hikikomori. It is in Japanese and will help you to gain a better understanding of this disorder. Then, read the comments about a BBC news program that discusses the hikikomori problem in Japan, but those who posted comments said that they had or they knew of people who had similar problems. After you have done the reading and watching videos, please discuss the following:

- 1) Why do you think hikikomori occurs?
- 2) What can be done to help people who are suffering from hikikomori?
- 3) Is hikikomori a spiritual rather than psychological condition?

第 5 回

Shutting Themselves In - New York Times article
<https://www.nytimes.com>
Feedback, editing and rewriting.
ASSIGNMENT

Watch the attached videos and respond to the questions.

Week 5 clip: Drinking & Driving
<https://www.youtube.com/watch?v=NOI3ZNidp5A>

Week 5 clip: U.S. Marine's Drunk Driving Kills Japanese Man In Tokyo
<https://www.youtube.com/watch?v=tOUWsFu8qGA>

Week 5 clip: Jacqui's Story
https://www.youtube.com/watch?v=GtXo_usX7Tw

a. Why do you think that people still drink and drive despite all of the evidence about how dangerous it is?

b. What is a just punishment for those who are caught driving drunk?

第 6 回

Bullying in schools and the workplace
ASSIGNMENT

Watch the video that describes Japan's present efforts to stimulate economic growth as well as the perceived effectiveness of this effort. Consider the efforts now being put forward and the difficulties of living in the present economic situation, and answer the following two questions below:

1. Discuss your opinion about the government's present effort to create economic growth.
2. What do you think is a way to grow the local economy, despite what is happening throughout the rest of Japan?

Week 6 - Japan's economy stumbles: Is Abenomics working?
<https://www.youtube.com/watch?v=XaTWEWWSsAs>

Week 6 - Nihon 101 - What is Abenomics?
<https://www.youtube.com/watch?v=2ZjOE5QbufY>

第 7 回

Globalization
ASSIGNMENT

This topic has various levels of difficulty and is one of the major issues facing countries around the world. To learn about and understand this topic, watch the introduction to globalization video, then see the BBC slide show for information about different areas of globalization. There is also a video about the bad side of globalization. Finally, there is a Wikipedia link to help you understand the difficult topic. Answer the following questions:

- a. Briefly discuss two positive effects of globalization.
- b. Briefly discuss two negative effects of globalization.
- c. Do you think the positive effects of globalization make it more acceptable in spite of the negative effects? Why or why not?

Week 7 - Introduction to Globalization
http://www.youtube.com/watch?v=e1RTU_xrf38
Week 7 - Institute for Global Labour and Human Rights
<https://www.youtube.com/user/nlcnnet>
Week 7 - read about Globalization
<https://www.bbc.com/news/business-38600270>

第 8 回

Smoking and Smokers' Rights
ASSIGNMENT

The topic this week is about the increasing bans on smoking in public implemented around the world due to growing concerns about the public health from second-hand smoke.

To learn more about this movement to ban smoking in public places, see generally the

following Wikipedia page (you may also access the Japanese language version)

Last, discuss the three following questions:

Smoking bans

https://en.wikipedia.org/wiki/Smoking_ban

Also, view the following report (2 parts) about smoking bans

Inside Story - Smoking Bans

Part 1

<http://www.youtube.com/watch?v=n3BVJpcsDaU&feature=related>

Part 2

<http://www.youtube.com/watch?v=Ya0D4AKT5io&feature=channel>

Last, discuss the following questions:

- Do these bans on smoking in public infringe on the rights of smokers?
- Tobacco is not an illegal drug, so is it okay to ban its use so extensively?

Consumerism in Today's World

ASSIGNMENT

Please watch all 4 parts of "The Story of Stuff" and answer the following questions, and check out the article on plastics.

- Does the Story of Stuff cause you to think more carefully about yourself, how you define yourself as a member of society?
- If yes, what important lesson did you learn from the documentary?
- What do you personally think is the major problem with consumer societies?
- What can you do to help solve the problem?

Week 9 - The Story Stuff (Part One)

<https://www.youtube.com/watch?v=Dex1vLJ8q3c>

Week 9 - The Story Stuff (Part Two)

<http://www.youtube.com/watch?v=mnVnMLEEfFM&feature=related>

Week 9 - The Story Stuff (Part Three)

<http://www.youtube.com/watch?v=S9Ubk0sa1cs&feature=related>

Week 9 - The Story Stuff (Part Four)

<http://www.youtube.com/watch?v=1TM7HVc4-FU&feature=related>

第 9 回

第 1 0 回

Consumerism

ASSIGNMENT

DIRECTIONS: Read, watch, and listen.

Answer the questions:

- This is a sweatshop and the girls are being worked almost as "slaves." Why do they choose to work there?
- Why does the owner not pay his workers more?
- Why don't foreign companies investigate these places in greater depth?
- Why does the country (society) allow this situation to continue?

China's Forced Labor Problem

<https://thediplomat.com/2018/03/chinas-forced-labor-problem/>

Hot off the BBC Press | China Probe over Slave Labor Factory

<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-11989414>

Santa's Workshop - Inside China's Slave Labour Toy Factories

<http://www.youtube.com/watch?v=yF8jUDzz5bE>

第 1 1 回

Understanding and Defeating Racism

ASSIGNMENT

DIRECTIONS: Read, watch, and listen.

- What interesting new thing have you learned about the idea of race?
- Have you ever been affected by (or witnessed) racism?
- If yes, briefly describe what happened.
- What do you feel is the best way to defeat racism in the world today?

1. Read the attached UN report:

<https://www.ohchr.org/EN/NewsEvents/Pages/DisplayNews.aspx?NewsID=23453&LangID=E>

2. Watch the video on race as a concept: Race: Are We So Different? (YouTube)

https://www.youtube.com/watch?v=8aaTAUAEyho&feature=player_embedded#!

3. Watch this video, too, race as a mythology: The Myth of Race (YouTube)

<https://www.youtube.com/watch?v=VnfKgffCZ7U>

	<p>4. Blue-eyed vs. Brown-eyed people https://www.youtube.com/watch?v=WlHadqlq880&feature=youtu.be</p> <p>第12回 Explaining the Exam ASSIGNMENT</p> <p>There is no issue to discuss this week.</p> <p>Instead, you should think about an issue you might want to explore for your final exam, and perhaps start doing some more research on it.</p> <p>第13回 Deciding then Researching ASSIGNMENT</p> <p>Last week you told me about the topic you have chosen (remember, you can choose any topic from this course). This week, tell me roughly what you are going to say about that topic. I want you to do some research and post some links that are relevant to your topic. For this assignment, you can number the answers like I have done in the following example:</p> <p>EXAMPLE: 1. Topic: Internet Privacy 2. Content: I am going to make a presentation that tries to persuade people to quit using sites such as Google, Facebook, Yahoo, and Skype, and to switch to open-source alternatives. I am going to explain why i think they should quit, and then I am going to give an introduction to several alternatives. 3. Research: This site has lots of information on alternatives to the mainstream sites: https://prism-break.org/en/all/</p> <p>This comedy video explains how the CIA is funding Facebook: The Onion https://www.youtube.com/watch?v=Xk31-a3CJdo</p> <p>第14回 Last Minute Issues ASSIGNMENT</p> <p>Last minute questions? If you have any questions about the presentation, please ask me in Google Classroom.</p> <p>第15回 Submissions ASSIGNMENT</p> <p>Over the next week, you should finalize your video and post it by the deadline on the 30th of January by 23:59.</p> <p>If you have still have some concerns or questions, please send me an email <dbroudy@ocjc.ac.jp> or call me by mobile.</p> <p>If you have difficulty attaching your presentation, simply email it to me.</p> <p>Finally, please be sure to visit the Kyomuka to fill out a course evaluation for Current Issues Online.</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 {0} 2) 情報リテラシーに関する科目 {0} 3) ICTの活用 {0} 4) 初年次教育 {X}
テキスト	No particular text is used.
参考書	Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.
評価方法	Students will be evaluated in accordance with the quantity of their participation and, to a lesser extent, the quality of their writing. Since the course assumes and values the importance of dialogue and discussion of issues, quantity communicates a genuine desire to participate.
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	Preferably, students should have completed English Composition I and/or II. Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	Broudy研究室 Please check for details posted at my office North 4-1 or schedule time to meet face to face.
課題に対するフィードバック方	Students receive graded assessment for presentations as well as verbal and written feedback in rubrics throughout the semester.

講義科目名称： Advanced Writing

授業コード：

英文科目名称： Advanced Writing

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
授業形態：演習	ナンバリング：AWR322		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. Successful students in this course will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.
授業の概要	This course expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises and undertake an academic research project that develops skills in generating and developing fully developed arguments. Researching, summarizing, note-taking and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
授業計画	<p>第1回 Introduction -introductions -review syllabus H O M E W O R K: read short essay "Sugar: Friend of Foe" pgs. 3-4</p> <p>第2回 Discussions of readings 1 -discussion of Unit 1 in small groups -finish exercises H O M E W O R K: read Unit 2, pgs. 8-14 read Unit 1</p> <p>第3回 Discussions of readings 2 -discussion of Unit 2 -finish all exercises in class H O M E W O R K: -finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 review Unit 2 read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class</p> <p>第4回 Peer review -share a copy of your essay to share with your classmate -work through Unit 3 together H O M E W O R K: -finish your the Peer Review of your classmate's essay for the next class</p> <p>第5回 Finish peer review -finish up Peer Review process, refer to "Put it Together" pg. 22 -Writers' Workshop for short essay H O M E W O R K: read Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class</p> <p>第6回 Discussions of readings 3 -discussion of Unit 4 -finish all exercises H01 Exercise in Online Research H O M E W O R K: review Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class do "Put it Together" pg. 29</p> <p>第7回 Brainstorming and outline -submit essay for grading -give a lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline. -discussion of Unit 5 -finish all exercises H O M E W O R K: read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class</p>

	<p>review Unit 5</p> <p>第8回 Discussions of readings 4 -discussion of Unit 6 -finish all exercises H O M E W O R K: read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class do "Put it Together" pg. 49</p> <p>第9回 Discussions of readings 5 -discussion of Unit 7 -finish all exercises H O M E W O R K: read Unit 8 to understand any new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft during next class do "Put it Together" pg. 59</p> <p>第10回 Discussions of readings 6 -discussion of Unit 8 -finish all exercises H O M E W O R K: read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class do "Put it Together" pg. 66</p> <p>第11回 Discussions of exercises and Writers' Workshop -discussion of exercises -Writers' Workshop for research paper H O M E W O R K: finish marking papers at home read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class</p> <p>第12回 Writers' Workshop 2 -discussion of Unit 9 and exercises -Writers' workshop for research paper H O M E W O R K: do exercise 4 on pg. 78, exercises 8 and 9 on pg. 81, and exercise 10 on pg. 82 read Unit 10 to understand any new vocabulary and the purpose of academic language read Unit 12</p> <p>第13回 Discussion of exercises 2 -discussion of Unit 10 exercises -Writers' workshop for research paper discussion of Unit 12 H O M E W O R K: review Unit 10 and 12</p> <p>第14回 Presentations 1 -Students' presentations prepare your presentation for next week review your notes from presentation rubrics</p> <p>第15回 Presentations 2 -Students' presentations -Submit final draft of research paper</p> <p>第16回 Course submissions finalize and submit final research paper</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 [0]</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 [0]</p> <p>3) ICTの活用 [0]</p> <p>4) 初年次教育 [X]</p>
テキスト	Writing Research Papers (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)
参考書	No other materials are needed.
評価方法	<p>Presentation = 10%</p> <p>Short Essay = 30%</p> <p>Research Paper = 40%</p> <p>Participation = 20%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking

	sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	Broudy研究室 Please check for details posted at my office North 4-1 or schedule time to meet face to face.
課題に対する フィードバック方 法	Students receive graded assessment for presentations as well as verbal and written feedback in rubrics throughout the semester.

講義科目名称： Investigative Reporting

授業コード：

英文科目名称： Investigative Reporting

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
授業形態：演習	ナンバリング：AWR320		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course is a survey of key areas of investigative writing that aims to develop independent thinking, skills in independent field research and the integration of results from interviews with people as a way to support observations and perspectives presented in articles. Successful students in this course will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.
授業の概要	Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic work. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, and narrative approaches to journalistic writing. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
授業計画	<p>第1回 Introductions / Investigation / Social inquiry</p> <ul style="list-style-type: none"> - Introducing Others - introduce the course text - review syllabus - introduce and discuss Assignment #1 (see page 4 of the syllabus for details) <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Talk, Topic, and Thesis in Unit 1, take notes to understand the short discussion for the next meeting - think about an issue you want to write about and be prepared by Day 2 to talk about it <p>第2回 Review readings 1</p> <ul style="list-style-type: none"> - Review Talk, Topic, and Thesis, and discuss Useful New Words - Do Unit 1, Exercise 1 (in class), p. 2 - Do Unit 1, Exercise 2 (in class), p. 3 - Do Unit 1, Exercise 3 (in class), p. 7 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Talk, Topic, and Thesis in Unit 1, take notes to understand the short discussion for the next meeting - think about an issue you want to write about and be prepared by Day 2 to talk about it <p>第3回 Review readings 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - review Authority, Chapter 4, p. 10 - discuss results of Unit 1, Exercise 4, p. 11 - discuss results of Unit 1, Exercise 5, p. 12 - discuss results of Unit 1, Exercise 6, p. 13 - read and discuss Introduction in Unit 2, Chapter 5, p. 14 - take notes to understand the short discussion for the next meeting - do Unit 2, Exercise 1 (in class), p. 16 - discuss Assignment #1 (see page 4 of the syllabus for details) - PowerPoint 1 権威.pptx <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - draft Assignment #1 for Workshop on Day 4 - read Body, Chapter 6, pp. 17-18 - do Unit 2, Exercise 2, p. 19 - read Conclusion, chapter 7, pp. 20-21 - do Unit 2, Exercise 3, p. 22 <p>第4回 Peer Editing 1</p> <ul style="list-style-type: none"> - Workshop for Assignment #1 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finish Assignment #1 to submit on Day 5

第5回	<p>Submissions and Readings</p> <ul style="list-style-type: none"> - submit Assignment #1 - review Unit 2, Exercise 2, p. 19 - review Unit 2, Exercise 3, p. 22 - PowerPoint 2 intro/body/concl.pptx <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Citing in Chapter 8, p. 23 - do Unit 3, Exercise 1, p. 25
第6回	<p>national social issues / selected readings / discussions / HW review readings</p> <ul style="list-style-type: none"> - discuss Assignment #2 (see page 5 of the syllabus for details) - review Citing, Chapter 8, p. 19 - discuss results of Unit 3, Exercise 1, pp. 20-21 - read and discuss Connecting, Chapter 9, p. 26 - PowerPoint 3 citing/connecting.pptx - do Unit 3, Exercise 2 (in class), p. 28 - do Unit 3, Exercise 3 (in class), p. 30 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - draft Assignment #2 for Workshop on Day 8 - read Contextualizing, Chapter 10, p. 31
第7回	<p>Review Readings 3</p> <ul style="list-style-type: none"> - review Contextualizing, Chapter 10, p. 31 - do Unit 3, Exercise 4 (in class), p. 33 - do Unit 3, Exercise 5 (in class), pp. 35- 36 - PowerPoint 4 contextualizing.pptx <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - do Unit 3, Exercise 6, p. 36 - read Unit 4, Chapters 11, 12, 13, and 14 - do Unit 4, Exercise 1, p. 38 - do Unit 4, Exercise 2, p. 39 - do Unit 4, Exercise 3, p. 41 - do Unit 4, Exercise 4, p. 43
第8回	<p>Discuss Assignments</p> <ul style="list-style-type: none"> - discuss results of Unit 3, Exercise 6, p. 36 - review Voice, Clarity, Precision, Honesty - review Unit 4 Exercises 1-4 - PowerPoint 6 Voice - do Unit 4, Exercise 5 (in class), pp. 45-47 - do Unit 5, Exercise 6 (in class), p. 48 - Workshop for Assignment #2 - discuss Assignment #3 (see page 6 of the syllabus for details) <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finish Assignment #2 to submit on Day 9 - draft Assignment #3 for Workshop on Day 10 - read Unit 5, Applied Ethics, Chapter 15, p. 49
第9回	<p>Review readings 4</p> <ul style="list-style-type: none"> - submit Assignment #2 - discuss Applied Ethics, Chapter 12, pp. 34-35 - do Unit 4, Exercise 2 (in class), p. 35-36 - Powerpoint 6 applied/ethics.pptx - discuss Sample Informed Consent Form, p. 37 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finish Assignment #2 to submit on Day 9 - draft Assignment #3 for Workshop on Day 10 - read Unit 5, Applied Ethics, Chapter 15, p. 49
第10回	<p>Peer Editing 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - Workshop for Assignment #3 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finish Assignment #3 to submit on Day 11 - read Unit 5, Case 1, p. 37
第11回	<p>Review readings 5</p> <ul style="list-style-type: none"> - submit Assignment #3 - discuss Assignment #4 (see page 7 of the syllabus for details) - discuss Unit 5, Case 1, p. 37 - discuss Assignment #4 (see page 5 of the syllabus for details) <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Unit 5, Case 2, p. 38 - prepare Assignment #4 for Workshops on Days 13 and 14
第12回	<p>Review readings 6</p> <ul style="list-style-type: none"> - discuss Unit 5, Case 2, p. 38 - read and discuss Unit 5, Case 3, p. 39 - read and discuss Unit 5, Case 3, p. 40 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - edit your Video Project for Day 15
第13回	<p>Review readings 7</p> <ul style="list-style-type: none"> - Workshop for Assignment #4

	<p>HOMEWORK - finish your Video Project for Day 15</p> <p>第14回 Workshop - Workshop for Assignment #4 - Presentations</p> <p>HOMEWORK - finish preparing for follow-up presentations</p> <p>第15回 Finalize Workshop - Presentations - Return rubrics</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【0】 2) 情報リテラシーに関する科目 【0】 3) ICTの活用 【0】 4) 初年次教育 【X】</p>
テキスト	Facing Truth: New Ways for Writers to Confront Diverging Realities (text provided by the instructor)
参考書	Students are expected to conduct interviews, take notes, and use notes in the development of article.
評価方法	<p>Grades are calculated from scores on articles, presentations, and participation. Assignments = 70% Participation = 30%</p> <p>Article #1 Local Economic, Social or Political (Single authored) 250 words 5 pts. Article #2 Local Economic, Social or Political (Co-authored) 400 words 15 pts. Textual Interview #3 Local Economic, Social or Political Issue (Co-authored) 1000 words 25 pts. Video Project #4 National or Global Economic, Social, or Political Issue (Research Team) 12-15 mins. 25 pts.</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 Broudy研究室 Please check for details posted at my office North 4-1 or schedule time to meet face to face.
課題に対するフィードバック方法	Students receive graded assessment for presentations as well as verbal and written feedback in rubrics throughout the semester.

講義科目名称： 同時通訳 I

授業コード：

英文科目名称： Simultaneous Interpretation I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
授業形態：演習	ナンバリング：INT250		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 基礎レベルの同時通訳の理論と実際</p> <p>【到達目標】 同時通訳に必要な訓練について理解し、実践できる。(知識) (技能) 基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素について知識を獲得する。(知識) 高いレベルの語学力・コミュニケーション能力を活用できるようになる。(技能) (態度)</p>
授業の概要	<p>この授業では、シャドーイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高める。特に英語のリスニング力を高めるため、実際のニュース（日本語および英語）なども教材の一部として活用する。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をする。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習する。 担当教員の同時通訳・逐次通訳の実務経験を土台に、効果的な同時通訳ができるように指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 「通訳とは」、「同時通訳と他の通訳の違い」、「通訳のための訓練とは」 同時通訳とその訓練法の基礎を学ぶにあたって留意すべき点を理解する。 さまざまな形の通訳がある中で、同時通訳が持つ特徴について理解する。 担当教員の実務経験を交えて、授業の意義を説明する。 授業で使用するLL機器の使用法について説明する。 訓練用の課題を配布する。 評価の説明をする。 【事前学習】 様々な形の通訳について調べておく。通訳の役割とは何かを考えておく。 【事後学習】 同時通訳が持つ特徴について、講義を振り返り、まとめる。授業で説明のあったLL機器の使用法を確認しながら復習する。(2時間)</p> <p>第2回 シャドーイング(発音、イントネーションの練習) 通訳の基礎訓練の一つであるシャドーイングについて、その意義と訓練法を学び、実践する。 LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 【事前学習】 前回の授業で配布された課題を自主学習して準備する。(2時間) 【事後学習】 授業で学んだ内容を踏まえて、LL機器も活用しながら課題の遂行に励む。(2時間)</p> <p>第3回 語彙(単語・固有名詞を含む)のクイック・レスポンス スムーズで正確な通訳を可能にする、語彙力と反応力を向上させるための訓練を行う。 LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 【事前学習】 与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。(2時間) 【事後学習】 課題の中の語彙、単語表現等のクイック・レスポンスを自習する。(2時間)</p> <p>第4回 予測練習 動詞、構文、背景知識を駆使して話しの流れを予測する練習を行う。 【事前学習】 与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。(2時間) 【事後学習】 LL機器を活用して、同時通訳の自主練習をする。(2時間)</p> <p>第5回 リテンション・リプロダクション リテンションの訓練では、短文を聴き、リピートする訓練を繰り返すことで、短期記憶を向上させる訓練を行う。様々な難度・長さの文を使ったり、記憶力により負荷をかける方法を使ってバラエティ豊かなリテンション訓練を行う。 リプロダクションの訓練では、一定の長さのある音声データを聴き、その内容を伝える練習を行う。内容を的確に伝えられることを目指す。 【事前学習】 与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。(2時間) 【事後学習】 身近なデータを活用して、授業で行ったリテンション、リプロダクションの練習を引き続き行う。(2時間)</p> <p>第6回 サイト・トランスレーション 英語をその通りの語順で理解し、的確な訳出を行うための訓練法を学び、実践する。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 【事前学習】 与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。(2時間) 【事後学習】 授業で行ったサイト・トランスレーションの技法を参考に、身近な文章をサイト・トランスレーションを用いて読解する。(2時間)</p> <p>第7回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。内容を正しく理解した通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。 【事前学習】 与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。シャドーイングの自主練習も行う。(2時間) 【事後学習】 授業で行った同時通訳を、さらにスムーズにできるように自主練習する。自分の同時通訳を録音して聞き、要改善点を探る。(2時間)</p> <p>第8回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2 日本語、英語の原稿をもとに通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながら通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。</p>

第9回	<p>【事前学習】与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。シャドーイングの自主練習も行う（2時間）。</p> <p>【事後学習】授業で行った同時通訳を、さらにスムーズにできるように自主練習する。自分の同時通訳を録音して聞き、要改善点を探る。（2時間）</p> <p>日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に）1</p> <p>日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。内容を正しく理解した正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。</p> <p>【事前学習】与えられた課題について、ニュースの内容に関する知識を深める。シャドーイングの自主練習も行う。（2時間）</p> <p>【事後学習】授業で行った同時通訳を、さらにスムーズにできるように自主練習する。自分の同時通訳を録音して聞き、要改善点を探る。（2時間）</p>
第10回	<p>日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に）2</p> <p>日本語、英語の原稿をもとにニュースの通訳をする。伝わりやすい言葉や表現を選びながらも正確な通訳ができることを目指す。前回までの訓練法も併せて行う。LL機器を活用して自らのパフォーマンスをチェックし、向上に活かす。</p> <p>【事前学習】与えられた課題について、ニュースの内容に関する知識を深める。シャドーイングの自主練習も行う。（2時間）</p> <p>【事後学習】授業で行った同時通訳を、さらにスムーズにできるように自主練習する。自分の同時通訳を録音して聞き、要改善点を探る。（2時間）</p>
第11回	<p>通訳者としての立ち振る舞い（マナー）</p> <p>コミュニケーションの仲介者として心得ておくべき通訳者の立ち振る舞いについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】円滑な、また効果的なコミュニケーションに必要な事柄はなにか調べる。（2時間）</p> <p>【事後学習】日常生活において、円滑なコミュニケーションをするように意識する。（2時間～）</p>
第12回	<p>メモ取り</p> <p>逐次通訳に必要なメモ取りについて基本的必要事項を学ぶ。取ったメモを元に、伝わりやすい言葉や表現ができるように練習を重ねる。</p> <p>【事前学習】与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。シャドーイングの自主練習も行う（2時間）。</p> <p>【事後学習】ニュースやスピーチの音声を聞きながらメモを取って再現する自主練習をする。（2時間）</p>
第13回	<p>逐次通訳（日→英）</p> <p>日英の逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。前回のメモ取りに関する訓練も併せて行う。</p> <p>【事前学習】与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。シャドーイングの自主練習も行う（2時間）。</p> <p>【事後学習】日本語のニュースやスピーチの音声を聞きながらメモを取って再現する自主練習をする。（2時間）</p>
第14回	<p>逐次通訳（英→日）</p> <p>英日の逐次通訳に必要な事柄を学ぶ。リテンション、リプロダクションなどの訓練も行う。メモ取りに関する訓練も併せて行う。</p> <p>【事前学習】与えられた課題の語彙・単語表現を調べて授業に備える。シャドーイングの自主練習も行う（2時間）。</p> <p>【事後学習】英語のニュースやスピーチの音声を聞きながらメモを取って再現する自主練習をする。（2時間）</p>
第15回	<p>同時通訳の総合演習</p> <p>これまで学んだ事柄を総動員し、効果的な同時通訳を目指して最終練習をする。</p> <p>【事前学習】これまでの授業や訓練を踏まえて、自分に必要な練習方法を組み合わせて自主練習をする。</p> <p>【事後学習】授業で行った演習の振り返りをし、より効果的な通訳をするために自分に必要なものは何かを考え、実践する。</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 { }</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 { }</p> <p>3) ICTの活用 {○}</p> <p>4) 初年次教育 { }</p>
テキスト	授業担当教員が準備・配布する。
参考書	授業内で指示する。
評価方法	授業中のパフォーマンス 100%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>

履修上の注意	必要に応じてUSBメモリを持参すること。シャドーイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。
オフィスアワー	メールアドレス：senko@oc.jc.ac.jp 毎週月曜日 4 時限目 城間研究室 (学生課にいる場合もあります。946-1234にご連絡ください)
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内でその都度行う。

講義科目名称： 異文化コミュニケーション I

授業コード：

英文科目名称： Intercultural Communication I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
授業形態：講義	ナンバリング：CMS134		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景を学び、異文化コミュニケーションを図るうえで必要不可欠な技能と態度を身につける。</p> <p>【到達目標】 ①認知的領域：異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景を学び、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。 ②技能表現的領域：異文化コミュニケーションの諸現象を学ぶことにより、異文化コミュニケーション能力と技能を高め、多文化共生社会の構築に貢献できるように学ぶ。 ③情意的領域：多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、自己と他者を尊重し、文化の多様性や異文化交流の意義を体験的に理解することができる。</p>
授業の概要	<p>講義形式とグループワーク形式で授業を行う。</p> <p>【知識・理解】異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景及び異文化コミュニケーションの現状と課題を把握することができる。</p> <p>【技能】グループワークを通して、家庭、学校、職場、地域社会で日常的に起こりうる異文化間の誤解や摩擦についての認識を深め、多文化社会で生きる上での必須となる実践的な対話力・人間関係力を身につける。</p> <p>【態度】異文化を背景に持つ国や地域の出身者をゲスト・スピーカーとして招き、その国の歴史、社会、文化について学び、彼らとの直接的な交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶということ グローバル化が進展する現在の世界で、なぜ異文化コミュニケーションを学ぶことが必要なのかについて考える。多文化化、グローバル・マインド、ローカル・アフェクト、コミュニケーションのコンテクスト、文化の共有と継承、パワー、メディアなどのキーワードを用いて、異文化コミュニケーションを学ぶ意義について学ぶ。 【事前学習】「なぜ異文化コミュニケーションを学ぶ必要があるのか」その意義について、自分の意見をまとめる。 【事後学習】「多文化共生」「グローバル・マインド」と「ローカル・アフェクト」「コミュニケーションのコンテクスト」「文化の共有と継承」などについて、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>第2回 コミュニケーションとサイン コミュニケーションとは、人と人が線を引き直したり、線を越えようとすることにより、互いに理解し合うプロセス。これは主に言語、非言語メッセージの意識的・無意識的なやり取りを通して行う。このコミュニケーションのプロセスについて詳しく学ぶ。 【事前学習】「コミュニケーションとは何か？」について調べ、自分の意見をまとめる。 【事後学習】「コミュニケーションのプロセス」「言語・非言語メッセージ」について、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>第3回 文化について考える 文化とはあるコミュニティに属する人々が共有する言葉、行動様式、ものの感じ方やその表現の方法、考え方、価値観などを指す。それらは個人が成長し社会化していく過程で獲得し内面化するもので、コミュニティやグループが共有するパターンとして継承されていく。この文化の共有と継承のメカニズムを中心に考えていく。また、世界の文化の多様性についても考える。 【事前学習】「文化とは何か？」について調べ、自分の意見をまとめる。 【事後学習】「文化の継承性・共有性・社会性」「文化の可変性」について、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>第4回 言語によるコミュニケーション コミュニケーションを考える上で、具体的な言語使用上の問題を見ていく。つまり、どのように会話を始め、維持するか、議論や交渉を進めるかというようなコミュニケーション・スタイルの問題、言葉が持っている意味の範囲の違いや連想の違いなどについて考える。 【事前学習】「言語によるコミュニケーション」について調べ、自分の意見をまとめる。 【事後学習】言語によるコミュニケーション、例えば、「会話スタイル」「議論や交渉」「コミュニケーション・スタイル」「言葉の意味」について、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>第5回 非言語コミュニケーション 私たちは身振り、手振り、顔の表情、目線など言語以外の多くの手段を用いてコミュニケーションを行う。ジェスチャーには、文化により違うものもあれば、文化を超えて普遍的なものもある。また、結婚式など儀式的な捉え方、参列する際の服装や決まりごとなども地域や文化によって異なる。このような非言語コミュニケーションの問題について考える。 【事前学習】「非言語コミュニケーション」について調べ、自分の意見をまとめる。 【事後学習】非言語コミュニケーション、例えば、身振り、手ぶり、顔の表情、目線、ジェスチャーなどについて、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>第6回 アジアの国（フィリピン）の歴史、社会、文化を学ぶ 異文化を背景に持つ国・地域の歴史、社会、文化について理解するために、アジアの国、フィリピンの歴史、社会、文化について学ぶ。 【事前学習】フィリピンの歴史、社会、文化について調べ、自分の意見をまとめる。 【事後学習】フィリピンの歴史、社会、文化について、グループ・ディスカッションや講義を通</p>

第7回	<p>して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>ゲスト・スピーカー（在沖フィリピン人）のスピーチと交流</p> <p>多様な文化的背景をもった人々との交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、文化の多様性や異文化交流の意義を体験的に理解するために、沖縄在住のフィリピン人をゲストスピーカーとして招き、彼らの文化や価値観、生活、経験などについて語ってもらい、その後、交流をする。</p> <p>【事前学習】フィリピンについて、またはゲスト・スピーカー自身のことについて（例えば、在沖外国人、マイノリティの立場にあることを踏まえて）、ゲスト・スピーカーに対する質問を考えてくる。</p> <p>【事後学習】ゲスト・スピーカーの講話を通して、フィリピンの歴史、社会、文化、そして、沖縄で外国人が生活することの大変さなど、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第8回	<p>アイデンティティとコミュニケーション</p> <p>海外にルーツを持つ人の中には日本で生まれ育っても外国籍の人もいれば、アメリカで20年暮らして行動様式としてはアメリカ的であるのに日本国籍という人もいる。異文化間の移動の結果起こるアイデンティティの変容や揺れなど、その複雑さについて考えていくことが大事。アイデンティティの問題は、グローバル時代の文化やコミュニケーションを考える際の重要な視点を提供してくれる。</p> <p>【事前学習】「自分のアイデンティティ」について、自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】「アイデンティティとコミュニケーションの関係」「アイデンティティ・クライシス」や「アイデンティティの変化」など、アイデンティティの問題について、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第9回	<p>メディアでつくられる文化</p> <p>メディアを通して知る世界は、すべて人を介してつくられた世界。しかし、しばしば私たちは、つくられた世界を信じてそのように現実の社会を見てしまう。メディアの中の表象が黒人や女性など、特定のグループに対するステレオタイプに結びつくことが多いので、メディアをチェックしながら、ステレオタイプや偏見のプロセスを考えていく必要がある。</p> <p>【事前学習】「メディアはあなたの生活にどのような影響を与えているのか？」について調べ、自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】「メディアでつくられる文化」「メディアによってつくられるステレオタイプ・偏見」などについて、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第10回	<p>グローバル化する世界の異文化接触</p> <p>言葉や習慣が違う異文化での生活になじむには大変な努力を必要とし、その負担がストレスとなって心身にのしかかる。このような異文化への適応の困難に起因する心身の不調はカルチャーショックと呼ばれる。本講義ではカルチャーショックの特徴、異文化適応の一般的なプロセス、異文化適応に影響を及ぼす要因、人間的成長の過程としての異文化適応、そして異文化経験によって生じる文化的アイデンティティの変化について考える。</p> <p>【事前学習】「カルチャーショック」について調べ、自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】「カルチャーショックの特徴」「異文化適応の一般的なプロセス」「異文化適応に影響を及ぼす要因」「人間的成長の過程としての異文化適応」「異文化経験によって生じる文化的アイデンティティの変化」について、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第11回	<p>コミュニケーションの阻害要因</p> <p>多文化社会の中で日々生活していると誰もがちょっとあの人は苦手だなと思う時がある。ある程度の偏見は誰にでもあるものと考え、それが差別行為につながるにないように考えることは重要。偏見は持つてはいけないと唱え学習するのではなく、誰の心にも単純に好き嫌いがあろうと、違和感があるものを避けようとする自分があることに気づく必要がある。そのメカニズムについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】コミュニケーションの阻害要因である「偏見」について調べ、自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】「偏見の種類」「偏見のメカニズム」「偏見が差別につながっていくプロセス」などについて、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第12回	<p>欧米の国（アメリカ）の歴史、社会、文化を学ぶ</p> <p>異文化を背景に持つ国・地域の歴史、社会、文化について理解することができるために、欧米の国、アメリカの歴史、社会、文化を学ぶ。</p> <p>【事前学習】アメリカの歴史、社会、文化について調べ、自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】アメリカの歴史、社会、文化、そして、在沖アメリカ人が抱える問題、米軍基地の問題、雨ラジアンの問題など、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第13回	<p>ゲスト・スピーカー（在沖アメリカ人）のスピーチと交流</p> <p>多様な文化的背景をもった人々との交流を通して、自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、文化の多様性や異文化交流の意義を体験的に理解するために、沖縄在住のアメリカ人をゲストスピーカーとして招き、彼らの文化や価値観、生活、経験などについて語ってもらい、その後、交流をする。</p> <p>【事前学習】ゲスト・スピーカーに、アメリカの歴史、社会、文化について、または、在沖アメリカ人の抱える問題点について、質問することを考えてくる。</p> <p>【事後学習】ゲスト・スピーカーの講話を聴いて、自分の感じたこと、考えたことを、レポートにまとめて、提出する。</p>
第14回	<p>異文化コミュニケーションの教育・訓練</p> <p>異文化コミュニケーションの教育・訓練とは、異文化コミュニケーション能力を育て、高めることである。そもそも「異文化コミュニケーション能力」とはどのようなものだろうか。また、どうすればその能力を育成することができるのだろうか。本講義では、そうした疑問について考えていく。</p> <p>【事前学習】「異文化コミュニケーション能力を磨くためにどのような訓練が必要だろうか？」自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】「異文化コミュニケーション能力とは何か？」「異文化コミュニケーション能力を育成するためにはどのような教育、訓練が必要か？」などについて、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p>
第15回	<p>多文化とうまくつきあうために</p>

	<p>グローバル・マインド、ローカル・アフェクトとしての異文化コンピテンスについて考える。多文化化に伴う状況の変化を察知し柔軟に対応できること、様々なコミュニケーション・スタイルを持った人に対して適切な反応ができること、自分の感情や行動を必要に応じて調整できること、相手の観点を理解しながら必要な自己主張ができることなど、世界の人々と出会い相互理解を進めよううえで必要となる基本的なコンピテンスとその訓練法を考える。</p> <p>【事前学習】「多文化共生社会でうまく生きていくためには、どのような知識、情動、行動が必要か？」自分の意見をまとめる。</p> <p>【事後学習】「異文化コンピテンス」「多文化共生社会で生きていくために必要なこと」「世界の人々と相互理解を進めよううえで必要なこと」など、グループ・ディスカッションや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	八島智子・久保田真弓『異文化コミュニケーション論』松柏社
参考書	<p>・石井敏・他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書</p> <p>・鍋倉健悦『異文化コミュニケーション入門』丸善</p> <p>・古田暁（監修）『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣</p> <p>・八代京子他『異文化トレーニング』三修社</p>
評価方法	授業への参加度(20%)、課題・プリント(30%)、中間・期末テスト(50%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	出席重視。異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因を学んでほしい。
オフィスアワー	毎週月曜日（4限目）／毎週水曜日（5限）仲里研究室（事前にメールでの要約が必要です。）
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して（採点・評価後）返却する。

講義科目名称： 異文化理解

授業コード：

英文科目名称： Cross-cultural Understanding

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
授業形態：講義	ナンバリング：GLS150		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ： 文化を超え自己と他者の関係性を理解し、共生社会を志す。</p> <p>知識理解：文化の多様性を理解し、他者理解のために必要な理論や知識を身につける。</p> <p>関心意欲：他者の歴史や社会に興味を持てる。社会の対立や不寛容に疑問を持ち、解決へ向けて考えるようになる。</p> <p>思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。文化的対立や不寛容の原因を判断し、適切な異文化コミュニケーションを判断できるようになる。</p> <p>態度：文化の多様性に対する寛容性と感受性を自ら高める。共感的理解ができるようになる。異文化を正しく理解し伝えるように努力できる。自ら異文化コミュニケーションを実践し、英語を通じた多文化共生社会の実現に寄与できるようになる。</p>
授業の概要	<p>1) 講義形式とワークショップ形式の両方を通し、アクティブ・ラーニング形式で異文化コミュニケーションにおける課題解決方法を実践する。</p> <p>2) 異文化理解に関する理論を学び、現在、世界や地域社会が抱える課題にどのように応用できるか議論する。実際にネイティブスピーカーとの交流を通し、異文化コミュニケーションの実践を試みる。</p> <p>3) 文化の多様性そして英語の多様性について学び、差別や偏見など異文化コミュニケーションが抱える様々な課題について考える。</p>
授業計画	<p>第1回 「文化」とは？「異文化理解」とは？～異文化コミュニケーションの課題～ 世界の文化の多様性、そして「文化」の概念について学ぶ。また「異文化」を「理解」という行為について考える。</p> <p>【事前学習】「異文化理解」とは何か。自ら文献や資料を参照しながら定義を考えてみる。 【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>第2回 英語の世界的伝播と文化変容 英語の世界的伝播の歴史を通して、英語が「国際共通語」となっていた過程を学ぶ。また様々な地域で独自に発達していった英語の多様性について学ぶ。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。 【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>第3回 文化的偏見と異文化理解（1） 異文化理解や異文化コミュニケーションを阻む要因についてステレオタイプや偏見、差別について考える。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。 【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>第4回 文化的偏見と異文化理解（2） ケーススタディとして現代アメリカにおける人種間の対立や差別の歴史を学ぶことで、今日のアメリカ社会のみならず地球社会が抱える異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について理解を深める。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。 【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>第5回 異文化理解の実践（1） 在沖アメリカ人をゲストに招き、文化的偏見に関する体験談を共有・議論する。どのようなコミュニケーションの違いが、偏見やステレオタイプ、そして差別につながる危険性があるのかを理解する。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。 【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>第6回 異文化理解の実践（2）[0] 前回の議論を通し、気づきや新たな問題意識について議論する。そしてどのような異文化コミュニケーションが異文化理解にとって有効なのか、理解を深める。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。 【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>第7回 文化変容と文化の多様性（1） イギリスから伝播した英語文化が、北アメリカやオセアニア地域で、どのように変容を遂げたのか、その歴史的変遷のプロセスについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p>

第8回	<p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>文化変容と文化の多様性（2）</p> <p>フィリピンやインドなど、アジア地域における英語文化の影響と新たな文化の生成について学ぶ。</p>
第9回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>英語の多様性（1）</p> <p>イギリス英語とその他の国や地域の英語について学ぶ。多様な英語の形が、どのような歴史や文化的背景によって変容を遂げたのか、理解を深める。</p>
第10回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>英語の多様性（2）</p> <p>アジア地域を例に挙げ、多様化していく英語の現状について学ぶ。同じ英語でありながらニュアンスの違いや表現の違いが、どのようなコミュニケーションギャップやトラブルにつながるのかを学ぶ。</p>
第11回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>英語の多様性（3）[0]</p> <p>イギリス英語のネイティブスピーカーとアメリカ英語のネイティブスピーカーを招き、お互いの英語の表現の違いや、その背景にある文化差、さらにその違いによるミスコミュニケーションについて紹介してもらう。</p>
第12回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>英語の多様性（4）[0]</p> <p>異文化コミュニケーションの実践において、文化的背景を同時に理解する重要性について確認し、効果的な異文化コミュニケーションの方法について議論する。</p>
第13回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>文化的アイデンティティと異文化理解（1）</p> <p>異文化を理解する上で、また異文化コミュニケーションの実践において、重要な要因となる文化的アイデンティティについて学ぶ。文化的アイデンティティの形成過程や、アイデンティティ意識が、異文化理解にどのような影響を与えるのか、議論し理解を深める。</p>
第14回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>文化的アイデンティティと異文化理解（2）</p> <p>アメリカ社会を例に、文化的アイデンティティがどのような人種的・民族的対立を生んでいるのか学ぶ。同時に、文化的アイデンティティを超えて融和を図ろうとする取り組みについても学ぶ。</p>
第15回	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p> <p>異文化理解と多文化共生社会</p> <p>偏見や差別、文化的アイデンティティをめぐる対立などを超えて、多文化共生社会の実現に、異文化理解の学びがどのように貢献できるかについて議論する。文化の多様性を踏まえた上で、グローバル社会の有効な異文化コミュニケーションになるために必要な学びについて総括する。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める。</p>
授業における具体的な特色や方法	アクティブ・ラーニングを促す取組【グループワークを基本とし、ディスカッション、発表をおこなう。】
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	『異文化理解入門』（原沢伊都夫）、『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（久米昭元他）、『他者への眼差し～異文化理解のための比較文化論』（ペーター・ニコラウス・ケピング）、『英語の心』（マーク・ピーターセン）、その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法	期末レポート50%（テーマに基づく複数の問題）、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度やディスカッションへの参加度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている

	<p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p>
履修上の注意	<p>「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。20分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。「異文化理解」の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも異文化理解の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンター映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。</p>
オフィスアワー	<p>毎週金曜日 3限目 事前にメールで予約してください。 メールアドレス：makoto@oc.jc.ac.jp</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題やレポートは採点後に希望に応じて返却します。</p>

講義科目名称： 教育英文法

授業コード：

英文科目名称： Pedagogical Grammar

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
大城 直人			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG230		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 英文法の文法規則についての理解を深め、その知識を基に文法指導力を身につけることが、本講義の到達目標である。確かな文法知識を習得し、文法規則を分かりやすく伝える説明力を養い、さらに、効果的な言語活動を計画・実践する授業運営力の獲得を目指す。</p> <p>【到達目標】 1) 英語の正確な文法知識を身につけている。2) 英文法の効果的な指導方法について理解している。3) 英文法の習得を図るための効果的な言語活動を計画・実践することができる。</p>
授業の概要	<p>外国語として英語を学ぶ環境（EFL環境）においては、英文法の学習は不可欠であり、効果的な文法指導力が教師には求められる。本講義では、中学・高校で扱う文法項目から主要なものを取り上げ、宣言的知識の強化を視野に入れ、文法規則についての理解を深める。また、帰納的な導入の仕方や、分かりやすい説明の仕方についても実例を交えながら考究する。さらに、文法形式の定着を図るエクササイズや文法事項の活用を図るタスクの計画及び実施のあり方についても、実践的な演習やマイクロティーチングを通して理解を深め、指導技術を高める。担当者の、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／なぜ文法を教えるのかー文法指導の目的と意義 全15回の授業計画について概要を確認した後、課題や評価方法等についても説明を行う。第1回目ということで、文法指導の目的と意義について、学習者の技能的側面や情意的側面に着目し、先行研究の知見も紹介しながら確認する。 【事前学習】各自の英文法学習歴を振り返り、英語習得における英文法の役割について考える。 【事後学習】補足資料に目を通し、英文法を学習する目的や意義についてさらに理解を深める。</p> <p>第2回 学校英文法（1）ー中学校で学習する基礎的文法項目 中学校で取り上げられる主要な文法項目について、問題演習を通して重要なポイントを確認する。 【事前学習】前時に配布した課題（中学校で学習する英文法）に取り組む。 【事後学習】本時の演習課題を見直し、中学校で学習する文法項目の要点を確認する。</p> <p>第3回 学校英文法（2）ー高等学校で学習する基礎的文法項目 高等学校で取り上げられる主要な文法項目について、問題演習を通して重要なポイントを確認する。 【事前学習】前時に配布した課題（高等学校で学習する英文法）に取り組む。 【事後学習】本時の演習課題を見直し、高等学校で学習する文法項目の要点を確認する。</p> <p>第4回 文法指導における教材研究ー場面設定・身近な素材の活用・視覚教材の開発 文法指導においては、自然な文脈の中で意味や機能について触れることが肝要である。また、身近な素材を活用することで学習者の興味・関心を高めることができる。また視覚教材を効果的に活用することで学習効果を高めることも可能になる。 【事前学習】授業前にテキスト第2章（pp. 23-34）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】課題（身近な素材を生かした教材開発）に取り組む。</p> <p>第5回 文法指導の流れと留意点ー文法指導における4つのステージの目的と意義 代表的な文法指導は4つのステージ（導入・説明・練習・活動）から構成される。その目的と意義について、各ステージの特徴を紹介しながら、確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp. 73-158）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第6回 文法指導における導入の実際ー帰納的でインタラクティブな導入 4つのステージの最初のステージである「導入」では、帰納的でインタラクティブなアプローチが効果的である。その理由についても確認しながら、具体的な指導例について紹介し、理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp. 78-94）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第7回 マイクロティーチング（1）ー導入の実際 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「導入」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。 【事前学習】マイクロティーチング（文法指導の導入）に向けて準備を進める。 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。</p> <p>第8回 文法指導における説明の実際ー形式・意味・用法を分かりやすく提示 4つのステージの2番目のステージである「説明」では、形式・意味・用法の3点について、分かりやすく簡潔に説明・提示することが求められる。具体的にいくつかの文法項目を取り上げ、例示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp. 98-114）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>

第9回	<p>マイクロティーチング（2）－説明の実践</p> <p>前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「説明」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。</p> <p>【事前学習】マイクロティーチング（文法指導の説明）に向けて準備を進める。 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。</p>
第10回	<p>文法指導における練習の実際－話し言葉中心の練習と書き言葉中心の練習</p> <p>4つのステージの3番目のステージである「練習」では、話し言葉と書き言葉の特性の違いにも触れながら、それぞれの具体的にいくつかの文法項目を取り上げ、例示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.116-134）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第11回	<p>マイクロティーチング（3）－練習の実践</p> <p>前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「練習」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。</p> <p>【事前学習】マイクロティーチング（文法指導の練習）に向けて準備を進める。 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。</p>
第12回	<p>文法指導における活動の実際－インプット重視の活動とアウトプット重視の活動</p> <p>4つのステージの最終ステージである「活動」では、実際に文法知識を活用し、コミュニケーション活動を行わせる。活動には、インプットを重視したものと、アウトプットを重視したものがあがるが、具体例を示しながらそれぞれの特性について理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.136-158）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第13回	<p>マイクロティーチング（4）－活動の実践（インプット重視の活動）</p> <p>前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「活動」部分について、特にインプット重視の活動を計画し、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。</p> <p>【事前学習】マイクロティーチング（文法指導：インプット重視の活動）に向けて準備を進める。 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。</p>
第14回	<p>マイクロティーチング（5）－活動の実践（アウトプット重視の活動）</p> <p>前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「活動」部分について、特にアウトプット重視の活動を計画し、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。</p> <p>【事前学習】マイクロティーチング（文法指導：アウトプット重視の活動）に向けて準備を進める。 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。</p>
第15回	<p>様々な文法指導－TBLT、フォーカス・オン・フォーム</p> <p>昨今注目を集めている文法の指導方法について具体例を示しながら概要を説明する。また、文法指導の留意点についてこれまで学んだポイントを総括する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第6章（pp.199-214）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「英語教師のための文法指導デザイン」（田中武夫・田中知聡著、大修館書店、2014年）
参考書	<p>「英語で教える英文法－場面で導入、活動で理解」（卯城祐司編著、研究社、2014年）</p> <p>「英文法指導アイデアブック 中学1年～3年」（瀧沢広人著、明治図書、2015年）</p> <p>「中学の英文法－アクティビティ・アイデア集」（瀧沢広人著、明治図書、2013年）</p> <p>「徹底例解ロイヤル英文法」（綿貫陽著、旺文社、2000年）</p>
評価方法	マイクロティーチング（40%）、文法小テスト（30%）、振り返りシート（20%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1. 遅刻：①遅刻3回は1回の欠席となる。②20分以上の遅刻は、欠席となる。</p> <p>2. 事前に教科書に目を通しておくこと（授業内の発言、有意義な議論につながる！）。</p> <p>3. 英語教育関係の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力、研究力を高める。</p> <p>4. 『英語教育』やその他の英語教育関連の雑誌等に目をおす。</p>
オフィスアワー	月曜日3限目（13:00-14:30）及び水曜日3限目（13:00-14:30）大城研究室（西研4-5）
課題に対するフィードバック方	1) マイクロティーチングに続く検討会で良かった点や改善点を指摘する。2) 課題や小テストは評価（採点）をして次の授業時に返却する。

講義科目名称： 国際理解教育

授業コード：

英文科目名称： Global Issues in Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
玉城 直美			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC322		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(テーマ) 国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学び、授業の実践を学び、実践授業につなげる (到達目標) 知識理解：国際理解の誕生した背景を理解し、本科目の様々な課題のテーマを理解する。 思考・判断：国際理解教育テーマについて深く掘り下げることができる。 技能・表現：本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで教材研究を行うことができる。 意欲関心：学びのプロセスに積極的に参加し、社会問題やニュースへの関心を寄せることができる。 態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、教材作成も積極的に取り組む。</p>
授業の概要	<p>NGO団体（沖縄NGOセンター）において18年間の実務経験と、国際理解教育の教材開発および教材を活用した本県の公私立学校教員への講習等において指導を行ってきた担当教員が、その経験を活かし、国際理解教育の理論と方法に関わる様々な事柄について、具体的な事例を提供し、解説する。 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。 本授業は度の学生も受講可能であるが、教育実習および教壇に立つことを想定した授業構成になっていることをご理解頂きたい。</p>
授業計画	<p>第1回 国際理解教育の始まりについて・講義 ねらい：国際理解教育の本科目についての共有理解、授業の始まりにむけてお互いの期待を共有 ・本授業のシラバス内容確認 ・評価、出席、テストの有無等確認 ・担当教員の国際理解教育における専門について ・「国際理解教育」本授業が目指すもの目標、テーマ当確認／「地球家族にみる世界の「住」」</p> <p>【事前学習】国際理解教育に関して、関心を持っておく 【事後学習】本授業を振り返る</p> <p>第2回 世界がもし100人の村だったら ねらい：世界の現状を100の割合になおし、ロールプレイ等のゲームで体験する。 ・世界を100人の村にしてみる中みえること ・男女の比率は？ ・世代の比率は？ ・世界の言語はどうなっているの？ ・文字が読めないとうなるの？ ・富を分配するとどうなるの？ ・世界がもし100人の村だったら（詩の輪読） ゲームの振り返り・大事にしたいこと これを授業に取り入れることのポイント、共有</p> <p>【事前学習】世界の現状に関心をもっておく 【事後学習】本授業を振り返る</p> <p>第3回 （その1）言語からみる世界の現状「英語教育」から何をを目指すのか？ 英語を話すことがなぜ大事なのか、グローバリゼーションの中で日本のおかれている現状、私たちが向かう先は何が大事か、本教育を通して考える。</p> <p>わたしたち沖縄はよくチャンプルー文化、世界に開かれた島だと言われているが、ほんとうにそうだろうか？その事実を学ぶ一つに「沖縄移民」の歴史から現在の日系人につながるものがある。「沖縄移民」に学ぶ沖縄と世界のつながりを知り、教材を体験する。 ・写真にみる沖縄移民の歴史 ・体験記にみる一人ひとりの生き方 ・「移民小唄」から現在のポップミュージック。音楽を通して知る「移民の意味」 ・世界ウチナンチュの日について（ワーク&VTR） ・世界のウチナンチュ大会（VTR）</p> <p>【事前学習】グローバリゼーションについて興味・関心をもっておく 【事後学習】本授業を振り返る</p> <p>第4回 （その2）世界の言語「英語の教育」の情報共有から発表まで（授業研究グループワーク） ねらい：前週に続く学びに加え、地域教材を通して国際理解教育教材の開発の方法を学ぶ</p> <p>・グループ討論：教材を通して学んだこと ・グループ教材作成体験：言語活動の中で国際理解教育を学校現場で教えるとしたら？ ・グループ発表 上記共有</p> <p>【事前学習】国際的な教育、それぞれの国の国際理解教育に興味関心をもっておく 【事後学習】本授業を振り返る</p> <p>第5回 （その1）ティームティーチングの在り方、指導法体験</p>

チームティーチングの意味、実際に、教材体験を行う。

携帯の一生 ケータイを通して知る 私と世界のつながり
ねらい：携帯を通して世界とつながる。携帯の中の部品が世界中の鉱物資源を輸入して作られている現状をしり、消費と世界の環境・紛争の結びつきを知る。
・グループワーク①：「携帯の良し悪し」「携帯でできること」話し合い
・携帯クイズ
・グループワーク②：携帯販売のためのチラシから見えてくること、メディアリテラシー
・携帯と世界のつながり：脅かされる資源を奪い合う開発途上国（VTR）
・グループワーク③：携帯と私たちの生活の関係、よりよく付き合っていくためには

第6回
【事前学習】 チームティーチングの教授法を事前に調べておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（その2）チームティーチングの在り方、教材作成
チームティーチングで、教材作成に取り組む

テーマ、流れ、目標設定、指導案の簡易版の作成を行い、発表まで行う。

第7回
【事前学習】 先週の授業を振り返り、取り上げたいテーマを考えておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（世界の「食」）スパイスにみる世界の文化、調理実習体験
たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性

ねらい：食文化、風土、文化、宗教、気候これらは全て切り離せることなく、融合し合ってそれぞれの食文化がなりたっていることを知る。調理実習を行う
・個人ワーク：我が家の自慢のカレー
・グループワーク：スパイス・カレーにみるアジアの食文化
・食の作法：カトラリー・手職・橋食の文化について

第8回
【事前学習】 世界のカレー食文化を事前にリサーチしておく
【事後学習】 本授業を振り返る
国際理解教育教材テーマの映像視聴、視聴覚教材の選び方、使用方法について
ねらい：国際理解教育は他教科と比較しても教材の持つ意味、強さが特徴の一つである。また、視聴覚教材に関してもしかりであり、その教材化の視点を学ぶ。

第9回
【事前学習】 視覚教材の多様性に興味関心をもっておく
【事後学習】 本授業を振り返る
JICA沖縄への訪問学習、地域外国人との対話プログラム（地域交流）
ねらい：身近にある、国際理解教育に最適な環境の施設見学および、人的交流を行う。レジュメを持参し、個人のフィールドワークとする。場所：浦添市のJICA沖縄の施設およびフェスティバルのイベントへの参加を行う。

第10回
【事前学習】 JICA沖縄の役割や提供している国際理解教育関連の事業に興味関心をもっておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（その1）「異文化」「多文化」、「アイデンティティ形成」を学ぶ 参加型教育教材の体験
ねらい：教材開発の視点を学び、参加型教材とは何かを学ぶ
サオリの学びを通して、「異文化」「多文化」、「アイデンティティ形成」を学ぶ。

第11回
【事前学習】 アイデンティティという概念に興味関心をもっておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（その2）上記の体験よりオリジナル教材の作成→発表
ねらい：教材開発・参加型教材を前回、学んだので、実際に自分自身の学びを作成し、発表を行う。
実習を行い、学生同士で教材を体験しあう。

第12回
【事前学習】 教材作成のテーマ探しを行っておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（世界の「衣」）民族衣装にみる世界の文化、衣装を通した指導法を学ぶ
ねらい：世界で着られている「衣」をテーマに見えてくることを学ぶ。民族衣装をテーマに授業を行った場合、どのような授業ができるのか、実際に民族衣装の着付け体験、そこから見えてくることをまとめる。

第13回
【事前学習】 世界の民族衣装、衣に興味関心をもっておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（その1）教材づくりの視点、授業の進め方
ねらい：国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。
・文部科学省の学習指導要領との関係、授業の流れ作成、ねらい、対象者を絞り込んだ教材開発の重要性を知る。
・グループワーク①：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成

第14回
【事前学習】 教材作成やテーマ等に興味関心をもっておく
【事後学習】 本授業を振り返る
（その2）教材発表（参加型、ICTの活用を行うこと）
ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う
・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。
・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること
・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。

【事前学習】 教材準備や作成、指導案流れ作成をグループで進めておく
【事後学習】 本授業を振り返る

	<p>第15回 (その3) 教材発表 (参加型、ICTの活用を行うこと)</p> <p>ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。 <p>本授業の全回でやり足りなかったこと、教材体験を最後に一つ行う。</p> <p>【事前学習】 教材準備や作成、指導案流れ作成をグループで進めておく 【事後学習】 本授業を振り返り、今後の教育活動に活かしていく</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワークを含む</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 情報を収集し、読み解く力を身につける</p> <p>3) ICTの活用 【 】</p> <p>4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法	<p>参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内発言、レポート課題取り組み (20%) ・授業後の振り返りシート添削 (30%) ・レポート添削、教材作成・発表 (30%) ・活動発表の状況 (10%) ・授業グループ内の活動状況 (10%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 89点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 78点～89点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 67点～78点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 56点～67点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 56点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	<p>フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマ連続となります。</p> <p>積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表 (最後の授業プラン作り) を重視しているため、国際的な知識を身に付けた学生の参加を重視する。</p>
オフィスアワー	<p>毎週金曜日 3限目 玉城研究室</p> <p>※事前予約をお願いします</p>
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、課題やプリントは評価を行い (採点・評価後) 返却する

講義科目名称： 英語科教育法 I (=英語教育法)

授業コード：

英文科目名称： English Language Education I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC310		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、以下の内容を到達目標とする。①中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領について理解している。②中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。③学習指導要領の「3つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。④小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領や教科用図書等の教材、並びに小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方の基本について理解している。⑤英語の音声及び文字に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑥語彙・表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑦英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑧ALT等とのティーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑨生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。⑩観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。⑪言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。⑫第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。</p>
授業の概要	<p>教育とは何かという本質的な問題提起を通して、英語科教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、学習指導要領や英語教授法の変遷について考察する。また、英語教育に関わる諸課題を広く取り上げながら現状理解を図り、日本の英語科教育の方向性について議論を深める。さらに、英語授業運営と評価方法についても基礎的知識の理解を深める。10年間、高等学校における教員経験のある者が、その実務経験を活かし、「英語科教育法 I」を構成する①第二言語習得研究の知見やそれに基づく教授理論（理論に関する内容）②技能統合型の授業計画・授業実践・評価方法（実践方法等）について講義する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／学校英語教育の目的－英語教育と英語科教育 全15回の講義計画について概要を説明するとともに、課題や評価の方法についても確認する。さらに、英語教育と英語科教育の違いに触れ、学校における英語教育の目的について議論し理解を深める。 【事前学習】 これまでに受けた英語教育を振り返るとともに英語を学ぶ意義や目的について考える。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第2回 日本の英語教育と世界の言語教育観－グローバル化社会における英語教育 日本の英語教育の歴史と諸外国の言語教育について取り上げ、グローバル化が進展する今日において、英語教育のあるべき姿、目指すべき方向性について議論し、理解を深める。 【事前学習】 授業前に配布した資料を読み、概要を理解する。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第3回 教師論－学び続け成長する英語教師を目指して 英語教師に不可欠な資質・能力について意見を共有し、目指すべき教師像について理解を深める。さらに、ポートフォリオを作成・記入し、教師力の向上を目指して一歩を踏み出す。 【事前学習】 授業前にテキスト第5章（pp.56-65）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第4回 学習者論（1）－信念・学習スタイル・学習ストラテジー・動機づけ・自律 学習者要因の中で、英語習得に影響を及ぼす主要な要因について取り上げ、理解を深める。また、学習ストラテジーに関する質問紙に実際に回答し、各自の学習ストラテジーについて客観的データに基づいて把握する。 【事前学習】 授業前にテキスト第4章（pp.43-55）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第5回 学習者論（2）－生徒の特性や習熟度に応じた指導 前時のテーマを発展させ、実際の教室現場でどのように学習者要因を踏まえ効果的な指導を行うかについて議論し、個に応じた指導の可能性を探る。 【事前学習】 授業前にテキスト第4章（pp.43-55）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第6回 第一言語習得と第二言語習得－理論から応用へ 第一言語習得と第二言語習得における理論的側面を概観し、共通点や相違点について理解する。また、それらの知見を踏まえ、効果的な英語教育の在り方を考究する。 【事前学習】 授業前にテキスト第3章（pp.34-42）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第7回 言語習得と英語教授法－英語でのインタラクション 英語教授法の理論的背景について理解を深める。また、英語教授法の歴史的変遷についても触れ、これまでの英語教育の課題や現状を理解し、より効果的な教授法について議論を深める。 【事前学習】 授業前にテキスト第3章（pp.34-42）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>

第8回	<p>む。</p> <p>英語教育課程－学習指導要領・教科用図書・目標設定と指導計画</p> <p>学習指導要領の内容を比較し、中高における外国語「英語」の目標及び指導の在り方について理解を深める。実際に教科用図書を参照し、目標設定・指導計画の留意点について確認する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 24-33) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第9回	<p>英語教育における小中連携と中高接続－現状と課題</p> <p>小学校における英語教科化、大学入試改革など、英語教育改革の動向を踏まえ、小中校それぞれの校種における英語教育の現状や課題、校種間の連携の可能性と留意点について理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前に配布資料を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第10回	<p>教室の使用言語－Classroom Englishの活用</p> <p>「英語の授業は英語で」の意義を理解すると同時に、現状や課題についても考察する。また、英語の使い手としての英語教師の役割についても確認する。同時に、教室英語（教授用英語）の実際についても、具体例を示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第11回	<p>授業の形態－生徒中心の学習・ALTとのチームティーチング</p> <p>一斉授業と個別指導のメリット・デメリット、また教師中心の学習と生徒中心の学習のメリット・デメリットについても比較分析し、効果的な授業の在り方について議論し理解を深める。また、効果的なチームティーチングを行う上での留意点についても確認する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第12回	<p>測定と評価－評価の意義と役割・観点別評価・パフォーマンス評価</p> <p>評価の意義と役割について、授業運営、学習効果、学習者の動機づけとも関連づけながら理解を深める。また、観点別評価やパフォーマンス評価についても、具体例を示しながら、その可能性や課題について議論する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第17章 (pp. 202-213) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第13回	<p>音声と文字の指導－基本的特性・音声と文字による技能統合型活動</p> <p>音声と文字の指導について、それぞれの基本的特性に照らして、考究する。また、学習者の熟達度や学習スタイルとも関連付けながら、効果的な指導の在り方について議論を深める。</p> <p>【事前学習】授業前に配布資料を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第14回	<p>語彙・表現に関する指導－受容語彙と発表語彙・意図的学習と偶発的学習</p> <p>受容語彙と発表語彙の違いを踏まえ指導することの意義について確認する。また、意図的学習と偶発的学習についてもそれぞれの特性や相違点を確認し、効果的な語彙習得に資する指導の在り方・学習方法について議論し理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第12章 (pp. 140-148) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>これまで学んだテーマの中からいくつかを取り上げ、グループに分かれて意見を交わし発表する。全体で多様な意見を共有することで理解の深化を図る。</p> <p>【事前学習】これまでに配布した資料や振り返りレポートを見直ししておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－」（JACET教育問題研究会編、三修社）
参考書	<p>「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」（文部科学省）</p> <p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」（文部科学省）</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（文部科学省）</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）</p>
評価方法	Take-home Exam (60%)、振り返りシート (30%)、授業への貢献度 (10%) 等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p>

	.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 テキストとともに課題図書が指定される。 2 予習を前提として講義を行う。
オフィスアワー	月曜日 3 限目 (13:00-14:30) 及び水曜日 3 限目 (13:00-14:30) 大城研究室 (西研4-5)
課題に対する フィードバック方法	1) 課題 (Take-home Examや振り返りシート) を評価・採点し、返却する。2) 有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

講義科目名称： 英語科教育法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： English Language Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC311		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、以下の内容を到達目標とする。①中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。②学習指導要領の「3つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。③聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。④読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑤話すこと（やり取り・発表）の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑥書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑦複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑧文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑨異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑩教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。⑪学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑫学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。</p>
授業の概要	<p>中学校・高等学校における英語科教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、実践的指導力の育成を図る。中学校や高等学校の教育現場の実情に照らしながら、実際に使用されている教科書を用いて教材研究や学習指導案作成を行い、授業計画の具体的方法について理解を深める。また、英語4技能の効果的な指導方法についても、様々な事例に触れながら、理論と実践の両面から修得を図る。さらに、担当者の、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／英語科教育の目的と英語教師に期待すること 全15回の講義計画を概観し、課題や評価方法について説明する。さらに、本講義の初回にあたって、英語科教育の目的を再確認し、英語教師に求められる資質・能力について意見を共有する。 【事前学習】「英語科教育法Ⅰ」を振り返り、英語科教育の目的や教師に必要な資質・能力について考える。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第2回 教材研究と授業計画（1）－学習目標の設定と指導計画 教材研究の着眼点として、言語材料と内容の2点に着目し、レッスン全体の指導計画を立案し、そこから各授業へ落とし込んでいくプロセスを確認する。各授業の目標とレッスン全体の目標との整合性を図りながら、教材兼研究に取り組むことの重要性についても確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第14章（pp.162-170）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第3回 教材研究と授業計画（2）－ICTを活用した授業実践 ICTを活用した学習の効果や可能性について基礎的理解を図る。同時に、ICTを活用した授業の具体例を紹介しながら、教材研究の在り方についても確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第14章（pp.162-170）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第4回 教材研究と授業計画（3）－異文化理解と教材研究・開発 グローバル化が進展する中、異文化理解は極めて重要な課題と言える。英語科教育においても、国際共通語として英語を指導することが求められているが、そのためには文化・価値観・習慣の多様性についても同時に学習する必要がある。異文化理解教育の具体的方法、着眼点やアイデアについて共有し理解を図る。 【事前学習】授業前にテキスト第13章（pp.149-160）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第5回 学習指導案の作成（1）－指導案の構造分析・指導案作成の流れ 学習指導案の目的、作成の意義について確認する。実際の学習指導案とその元となった教科書の該当するレッスンを参照しながら、学習指導案作成のプロセスや留意点について理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第15章（pp.171-190）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】課題（振り返りレポート）に取り組むとともに、学習指導案の作成を行う。</p> <p>第6回 学習指導案の作成（2）－指導案作成の実際・ピアレビュー 前時の課題として出された学習指導案作成を踏まえ、各自が持ち寄った学習指導案をグループで共有し、意見を共有する。また、学生が作成した学習指導案について、優れた点や改善すべき点を指摘し、理解の深化を図る。 【事前学習】課題（学習指導案の作成）に取り組む。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第7回 文法指導－文法的重要性・帰納的学習と演繹的学習・文法知識の習得から活用へ 文法指導の重要性を、言語の本質に照らし、技能面・情意面の両側面から確認する。また、技能的学習と演繹的学習の特性や相違点についても理解を深める。知識を活用することの重要性を確認し、具体的方法について概観する。 【事前学習】授業前にテキスト第11章（pp.133-139）を読み、概要を理解しておく。 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>

第8回	<p>む。</p> <p>リーディングの指導と評価－基本概念・リーディング指導の3つのステージ</p> <p>リーディング能力の下位要素について確認し、効果的な指導の具体的方法について学ぶ。特に、リーディング指導の3つのステージについて、各ステージの目的や意義を踏まえ、指導の具体例を示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 81-91) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第9回	<p>リスニングの指導と評価－基本概念・様々なリスニング活動</p> <p>リスニングの特性について、リーディングとの類似点や差異に着目し、その基本的概念を理解する。また、リスニング指導の具体的方法についても例示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 68-80) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第10回	<p>スピーキングの指導と評価 (1) －基本概念・「やりとり」の指導</p> <p>スピーキング能力の下位要素を取り上げ、その基本的特性について理解する。特に、「発表」と「やりとり」を対比させ類似点や差異に着目し、「やりとり」の効果的な指導、活動の具体例を示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp. 92-106) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第11回	<p>スピーキングの指導と評価 (2) －「発表」の指導</p> <p>スピーキング能力の下位要素を取り上げ、その基本的特性について理解する。特に、「発表」と「やりとり」を対比させ類似点や差異に着目し、「発表」の効果的な指導、活動の具体例を示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp. 92-106) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第12回	<p>ライティングの指導と評価－基本概念・様々なライティング活動</p> <p>ライティングの特性について、スピーキングとの類似点や差異に着目し、その基本的概念を理解する。また、ライティング指導の具体例を示しながら、効果的な指導の在り方を学ぶ。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第9章 (pp. 107-119) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第13回	<p>アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践－4技能統合型の言語活動</p> <p>「主体的」、「対話的」かつ「深い理解」を担保する授業の在り方について議論し、その具体的方法について理解を深める。4技能統合型の言語活動の目的や意義についても概観し、具体例を示しながら理解の深化を図る。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp. 120-132) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第14回	<p>教育実習－実習生に求められる資質能力・実習に向けた計画</p> <p>教育実習の意義や目的について理解する。特に、実習生に求められる資質能力について議論・共有し、実習に向けて各自の取り組むべき課題を再確認する。具体的な計画を立て、教育実習に向けて意識付けを図る。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>これまで学んだ内容を総括する。いくつかのテーマを設け、グループに分かれて議論し、意見の共有を図り、英語科教育の理論と実践に関する理解の深化を図る。</p> <p>【事前学習】事前に提示したテーマについて、考えをまとめておく。</p> <p>【事後学習】授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－」 (JACET教育問題研究会編、三修社、)
参考書	<p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」 (文部科学省)</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」 (文部科学省)</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」 (国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年)</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」 (国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年)</p>
評価方法	Take-home Exam (40%)、課題 (30%)、振り返りシート (20%)、授業への貢献度 (10%) 等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p>

	.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。 2 事前に受講資格審査を行う。
オフィスアワー	月曜日 3 限目 (13:00-14:30) 及び水曜日 3 限目 (13:00-14:30) 大城研究室 (西研4-5)
課題に対する フィードバック方法	1) 課題 (Take-home Examや振り返りシート) を評価・採点し、返却する。2) 有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

講義科目名称： 英語科教育法演習 I (中学校・高校)

授業コード：

英文科目名称： Methods and Practice in Eng. Teaching I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城直人・Christopher Valvona			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC312		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業では、教師・生徒の両方の立場から模擬授業に関わり、教材研究の視点、授業運営の要点等について理解を深めることをメインテーマとする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、さらに以下の内容を到達目標とする。（１）中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。（２）学習指導要領の「３つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。（３）複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。（４）教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。（５）英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。（６）学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。（７）学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。（８）観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。（９）言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。</p>
授業の概要	<p>本講義のねらいは、英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。また、担当者は、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／リーディング指導中心の授業映像の視聴と討議 全15回の授業計画の概要を説明し、課題や評価の方法についても確認する。また、リーディング指導がテーマの授業映像を視聴し、指導の優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。 【事前学習】「英語科教育法Ⅰ」のリーディング指導の章を振り返り、指導の留意点を確認する。 【事後学習】授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第2回 Explaining the syllabus / guide to and example of classroom self-introduction presentations / self-introduction presentation preparation シラバスの説明／自己紹介プレゼンテーションの説明と例示／自己紹介プレゼンテーションの準備 【事前学習】シラバスに目を通し、自己紹介プレゼンテーションに向けて興味深い情報を確認する。 【事後学習】自己紹介プレゼンテーションの様々な手法を振り返り、次のプレゼンテーションの準備をする。</p> <p>第3回 リーディング指導中心の授業づくりーリーディング指導の3つのステージの特性と役割ー リーディング指導の3つのステージ（Pre-reading、While-reading、Post-reading）の目的や意義について基本的概念を理解する。それぞれのステージの具体的な指導方法を例示し、理解を深める。 【事前学習】授業前に、配布資料に目を通し、リーディング指導の留意点を確認しておく。 【事後学習】授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組むとともに、マイクロティーチングに向けた準備を行う。</p> <p>第4回 Finishing self-introduction by making use of ICTs ICTを活用した自己紹介プレゼンテーションの実施 【事前学習】ICTを用いた自己紹介の準備を完成させる。 【事後学習】自己評価及び学生同士の相互評価を行う。</p> <p>第5回 4年生による「アクティビティ発表会」 教育実習を終えた4年生に、研究授業等で実際に活用したアクティビティを紹介してもらい、授業づくりに資する学習の機会を提供する。また、研究授業を再現してもらい、生徒の立場から授業に参加し、優れた点や改善点について考えを共有し、各自の授業づくりに役立てる。 【事前学習】「教育英文法」、「英語科教育法Ⅰ」の内容を振り返り、授業づくりの観点を見直す。 【事後学習】検討会で共有された様々な意見を振り返り、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第6回 Demonstration lesson by 4th year teacher training students 4年生による「英語模擬授業」 【事前学習】これまでに学んだ指導法を振り返り、見直しをする。 【事後学習】模擬授業に対するコメントやフィードバックを行うとともに、自身の模擬授業に役立てる。</p> <p>第7回 マイクロティーチング（1）ーPre-reading指導（言語材料重視）の実践ー 言語材料を重視したPre-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】Pre-reading指導（言語材料重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。 【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>第8回 Introducing grammar: alternative approaches 文法指導の代替アプローチへの誘い</p>

第9回	<p>【事前学習】 これまでに学んだ代表的な文法指導方法を振り返る。 【事後学習】 文法指導における様々な指導方法について調べる。</p> <p>マイクロティーチング（2）－Pre-reading指導（内容重視）の実践－</p> <p>本文の内容を重視したPre-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】 Pre-reading指導（内容重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに向けた準備を行う。 【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第10回	<p>Alternative ways of grammar instruction</p> <p>文法指導の代替アプローチの具体例 【事前学習】 代替的な文法指導について調べ、クラスで共有する準備を行う。 【事後学習】 代替的な文法指導を教育実習でどう活かせるかについて熟考する。</p>
第11回	<p>マイクロティーチング（3）－While-reading指導（意味理解重視）の実践－</p> <p>意味の理解を重視したWhile-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】 While-reading指導（意味理解重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。 【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第12回	<p>Authentic materials: explanation</p> <p>オーセンティック・マテリアルの例示と説明 【事前学習】 日常生活の身近な物で、外国語教育に活用できる具体的な物を考える。 【事後学習】 日常生活の具体的な物をどのように外国語教育の中で活用するかを考える。</p>
第13回	<p>英語イマージョンプログラムの授業体験－All Englishによる授業の実際－</p> <p>インターナショナルスクールを訪問し、英語イマージョンプログラムの実際の様子を見学し、All Englishでの英語の授業運営に資する知見や技術を学び、授業実践に役立てる。 【事前学習】 インターナショナルスクールの概要に関する配布資料に目を通し、質問を考えておく。 【事後学習】 イマージョンプログラムの授業見学を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第14回	<p>Authentic materials: student presentations</p> <p>オーセンティック・マテリアルの活用方法：学生による発表 【事前学習】 日常生活の身近な物を活用した授業づくりに取り組む。 【事後学習】 紹介された日常的な物に対してフィードバックを行う。</p>
第15回	<p>マイクロティーチング（4）－While-reading指導（内容理解重視）の実践－</p> <p>内容の理解を重視したWhile-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】 While-reading指導（内容理解重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。 【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第16回	<p>Task-based language teaching (TBLT)</p> <p>タスク中心型言語教育について 【事前学習】 これまでに学んだ教授法について振り返り、理解の見直しを行う。 【事後学習】 教育実習において、TBLTをどのように導入できるかについて検討する。</p>
第17回	<p>「高校生英語弁論大会（本学主催）」へ参加－英語科特有の課外指導の実際－</p> <p>本学主催の「高校生英語弁論大会」へ補助役員として参加し、英語科特有の課外指導の実際について体験的に学び、英語教師の仕事内容の多様性を理解する。参加後は、レポートを提出し、体験で得たことを共有する。 【事前学習】 英語弁論大会の趣旨、評価の観点等を確認しておく。 【事後学習】 英語弁論大会を振り返り、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第18回	<p>Participation in HS speech contest</p> <p>「高校生英語弁論大会（本学主催）」への参加 【事前学習】 英語弁論大会のスピーチ原稿に事前に目を通しておく。 【事後学習】 英語弁論大会事後のレポートに取り組む。</p>
第19回	<p>マイクロティーチング（5）－Post-reading指導（言語材料インプット重視）の実践－</p> <p>言語材料のインプットを重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】 Post-reading指導（言語材料インプット重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに向けた準備を行う。 【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第20回	<p>Content and language integrated learning (CLIL)</p> <p>内容言語統合型学習について 【事前学習】 英語の授業で学習したい内容や学習可能な内容について考える。 【事後学習】 CLILに基づいた英語授業のカリキュラムを考える。</p>
第21回	<p>マイクロティーチング（6）－Post-reading指導（言語材料アウトプット重視）の実践－</p> <p>言語材料のアウトプットを重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】 Post-reading指導（言語材料アウトプット重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに向けた準備を行う。 【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第22回	<p>Classroom management: introduction</p> <p>英語授業の運営と管理について（導入） 【事前学習】 CLILに基づいた英語授業の実践例を共有する。 【事後学習】 効果的な授業運営に関する質問事項について考えておく。</p>
第23回	<p>マイクロティーチング（7）－Post-reading指導（内容理解の深化重視）の実践－</p> <p>内容理解の深化を重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。</p>

第24回	<p>【事前学習】 Post-reading指導（内容理解の深化重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに向けた準備を行う。</p> <p>【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p> <p>Classroom management: discussion session</p> <p>英語授業の運営と管理について（討議）</p> <p>【事前学習】 前回の授業を振り返り、授業運営に関する議論に向けて意見や考えをまとめておく。</p> <p>【事後学習】 授業運営の方法をどのように教育実習に活かせるか振り返る。</p>
第25回	<p>マイクロティーチング（8）-Post-reading指導（4技能統合型）の実践-</p> <p>4技能の統合を重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。</p> <p>【事前学習】 Post-reading指導（4技能統合型）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。</p> <p>【事後学習】 検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第26回	<p>Developing reading skills</p> <p>リーディング・スキルの向上を目指して</p> <p>【事前学習】 これまでに学んだリーディング・スキルを振り返り、見直しておく。</p> <p>【事後学習】 多読、娯楽としての読書、速読をどのように教育実習に活かせるか検討する。</p>
第27回	<p>授業映像（5ラウンドシステムの英語授業）の視聴と討議</p> <p>5ラウンドシステムの英語授業の様子を視聴し、そこで行われている言語活動や指導方法について理解を深め、授業づくりに役立てる。</p> <p>【事前学習】 授業前に、5ラウンドシステムに基づいた英語授業の成果をまとめた論文を読んでおく。</p> <p>【事後学習】 視聴したDVDの内容や質疑応答の内容を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第28回	<p>Working with ALTs</p> <p>ALT（外国語指導助手）との協働について</p> <p>【事前学習】 ALTのことについて概要を調べておく。</p> <p>【事後学習】 ALTとのチームティーチングを効果的に行う方法について考える。</p>
第29回	<p>まとめ</p> <p>これまで学んだことを振り返り、リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点・着眼点について再考する。また、評価の在り方についても触れ、日々の授業と評価の整合性を図ることの重要性を確認する。</p> <p>【事前学習】 これまでの学習を振り返り、リーディング指導中心の授業づくりにおける質問を考える。</p> <p>【事後学習】 質疑応答の内容を振り返り、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第30回	<p>Summary and concluding comments</p> <p>授業の振り返りとまとめ</p> <p>【事前学習】 今学期学んだ内容をすべて振り返る。</p> <p>【事後学習】 本時の授業を含め、今学期学んだ内容をすべて振り返っておく。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「英語授業ハンドブックー中学校編 DVD付ー」（金谷憲、太田洋、馬場哲生、青野保、柳瀬陽介編、大修館書店、2009年）
参考書	<p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」（文部科学省）</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（文部科学省）</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）</p> <p>「英語授業ハンドブックー高校編 DVD付ー」（金谷憲、久保野雅史、高山芳樹、阿野幸一編、大修館書店、2012年）</p>
評価方法	グループ発表や模擬授業（60%）、課題レポート（20%）、授業振り返りシート（10%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅱ」の履修を前提とする
オフィスアワー	月曜日3限目（13:00-14:30）及び水曜日3限目（13:00-14:30）大城研究室（西研4-5） （仮）Valvona：毎週**曜日 **限目 Valvona研究室
課題に対するフィードバック方法	1) 提出された課題にコメントを付記し返却する。2) ミニ授業の後に検討会を設け、優れた点や改善点について指摘し助言を行う。

講義科目名称： 英語科教育法演習Ⅱ(中学校・高校)

授業コード：

英文科目名称： Methods and Practice in Eng. Teaching Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC410		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、教師・生徒の両方の立場から模擬授業に関わり、教材研究の視点、授業運営の要点等について理解を深めることをメインテーマとする。また、中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、さらに以下の内容を到達目標とする。(1)中学校及び高等学校の外国語(英語)の教科用図書について理解している。(2)学習指導要領の「3つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。(3)複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。(4)教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。(5)英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。(6)学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。(7)学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。(8)観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。(9)言語能力の測定と評価(パフォーマンス評価等を含む)について理解し、指導に生かすことができる。
授業の概要	受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践的に考究する。これまでの英語科教育法で学んだ内容を踏まえ、実習校で使用されている教科書を実際に用いて教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を2回実践する。授業後は、授業検討会を設け、授業反省・質疑応答・討議を行う。一連の取り組みを通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を養う。担当者の、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。
授業計画	<p>第1回 授業の概要説明/学習指導案の分析と評価 学習指導案作成の目的や意義を再確認し、学習指導案のサンプルをその元となった教科書と照らし合わせながら、作成の観点・留意点についても確認する。 【事前学習】「英語科教育法演習Ⅰ」の学習内容を振り返り、英語科教育の基礎的事項の理解に努める。 【事後学習】学習指導案作成の留意点を振り返り、模擬授業の指導案づくりにむけて準備を進める。</p> <p>第2回 授業観察(1)－文法指導中心の授業映像の視聴と討議 前年度の教育実習研究授業の中で、文法指導がテーマの授業VTRを視聴し、優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、理解を深めておく。 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。</p> <p>第3回 模擬授業(1)－文法の「導入」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「導入」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。</p> <p>第4回 模擬授業(2)－文法の「説明」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「説明」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。</p> <p>第5回 模擬授業(3)－文法の「練習」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「練習」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。</p> <p>第6回 模擬授業(4)－文法の「活用」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「活用」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。</p> <p>第7回 模擬授業(5)－4技能を統合した言語活動</p>

	<p>文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「4技能統合型言語活動」の観点から、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第8回	<p>模擬授業（6）－ICTの効果的な活用方法</p> <p>文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「効果的なICTの活用方法」に焦点を当て、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第9回	<p>授業観察（2）－リーディング指導中心の授業映像の視聴と討議</p> <p>前年度の教育実習研究授業の中で、リーディング指導がテーマの授業VTRを視聴し、優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第10回	<p>模擬授業（7）－形式スキーマを活性化させるPre-reading活動に注目して</p> <p>リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「形式スキーマの活性化」に焦点を当て、Pre-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第11回	<p>模擬授業（8）－内容スキーマを活性化させるPre-reading活動に注目して</p> <p>リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容スキーマの活性化」に焦点を当て、Pre-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第12回	<p>模擬授業（9）－While-readingにおける「意味」の確認に焦点を当てて</p> <p>リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「意味の確認」に焦点を当て、While-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第13回	<p>模擬授業（10）－While-readingにおける「内容理解」の確認に焦点を当てて</p> <p>リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容理解」に焦点を当て、While-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第14回	<p>模擬授業（11）－語彙・文法の定着を図るPost-reading活動に注目して</p> <p>リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「語彙・文法の定着」に焦点を当て、Post-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
第15回	<p>模擬授業（12）－内容の理解を深めるPost-reading活動に注目して</p> <p>リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容理解の深化」に焦点を当て、Post-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。</p> <p>【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。</p> <p>【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>1) 「英語授業ハンドブッカー中学校編 DVD付」（金谷憲、太田洋、馬場哲生、青野保、柳瀬陽介編、大修館書店、2009年）2) 実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。</p>
参考書	<p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」（文部科学省）</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」（文部科学省）</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年）</p>

	「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年） 「英語授業ハンドブック－高校編 DVD付－」（金谷憲、久保野雅史、高山芳樹、阿野幸一編、大修館書店、2012年）
評価方法	模擬授業（60%）、学習指導案（20%）、授業振り返りシート（10%）、授業への貢献度（10%）等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）－：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。 2. 模擬授業の前に必ず、学習指導案を提出する。 3. 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。
オフィスアワー	月曜日3限目（13:00-14:30）及び水曜日3限目（13:00-14:30）大城研究室（西研4-5）
課題に対するフィードバック方法	1) 提出された課題にコメントを付記し返却する。2) 模擬授業の後に検討会を設け、優れた点や改善点について指摘し助言を行う。